

安全高度化目標の達成に向けた実行計画(アクションプラン)の進捗状況

資料2-4

<対策項目>

1. 消費段階の保安対策

(凡例「★」:需要家の協力が必要なもの「☆」:他工事事業者の協力が必要なもの)

No.	対 策	具体的な実施項目(●:ロードマップ参照)	実施主体	資料2-1 記載ページ
■機器・設備対策				
1	○安全型機器・設備の更なる普及拡大	・安全型ガス機器(エコジョーズ・Siセンサーコンロ等)の普及	事業者、製造者	14ページ
2		・安全性の高いガス栓・接続具の普及	事業者、製造者	14ページ
3		・警報器の開発・普及	● 国、事業者、製造者	14ページ
4	○家庭用非安全型機器の取替え促進	・安全装置を搭載していない機器の撲滅に向けた取替え促進	● 国(★)、事業者(★)	10ページ
5	○業務用機器・設備の安全性向上	・(COセンサーを中心とした)ガス厨房安全システムの開発	● 事業者、製造者	10ページ
6		・立消え安全装置搭載業務用厨房機器の開発	● 事業者、製造者	10ページ
■周知・啓発				
7	○家庭用需要家に対する安全意識の向上のための周知・啓発	・非安全型機器・経年設備の取替えのおすすめ	国(★)、事業者(★)	10ページ
8		・機器使用時の換気励行のお願い	国(★)、事業者(★)	10ページ
9	○長期使用製品安全点検制度に基づく家庭用機器の経年劣化対応	・周知活動と所有者票回収率向上策の実施	国(★)、事業者(★)、製造者(★)	10ページ
10	○業務用需要家に対する安全意識の向上のための周知・啓発	・消費機器・給排気設備のメンテナンスのお願い	国(★)、事業者(★)	13ページ
11		・換気の励行のお願い	国(★)、事業者(★)	13ページ
12		・警報器の設置のおすすめ、警報器作動時の対応	国(★)、事業者(★)	13ページ
13	○関係事業者の安全意識向上のための周知・啓発	・(主に給排気設備の)設備設計・工事に関する指導	● 国(☆)	13ページ
14		・(建物塗装養生時等の)注意事項に関する周知・啓発	国(☆)、事業者(☆)	13ページ

2. 供給段階及び製造段階における保安対策

No.	対 策	具体的な実施項目(●:ロードマップ参照)	実施主体	資料2-1 記載ページ
■他工事事故対策				
15	○道路・需要家敷地内共通の事故対策	・他工事事故対策等に係る他省庁との連携	● 国	15ページ
16	○需要家敷地内における事故対策	・他工事事業者・作業員、建物管理者等への周知活動	国(☆)、事業者(☆)	15ページ
17	○道路における事故対策	・防護協定の締結	事業者(☆)	15ページ
18		・作業員レベルへの周知・教育の徹底	事業者(☆)	15ページ
■ガス工作物の経年劣化対応				
19	○本支管対策	・優先順位付けに基づいた対策実施の推進(要対策ねずみ錆鉄管)	● 事業者	16ページ
20		・対策実施に係る優先順位付け(維持管理ねずみ錆鉄管)	事業者	16ページ
21		・リスクマネジメント手法を活用した維持管理対策の推進(腐食劣化対策管)	事業者	16ページ
22		・技術開発成果を活用した対策の推進	事業者	16ページ
23	○灯外内管対策	・優先順位付けに基づいた対策実施の推進(保安上重要な建物)	● 事業者(★)	17ページ
24		・国の補助金制度等の活用による対策実施(保安上重要な建物)	● 国(★)、事業者(★)	17ページ
25		・業務機会を捉えた改善の必要性周知(保安上重要な建物以外の建物)	事業者(★)	17ページ
26		・技術開発成果を活用した対策の推進	事業者	17ページ
27	○製造設備対応	・高経年LNG設備対応	● 事業者	
■自社工事事故対策				
28	○作業ミスの低減に重点を置いた教育・訓練の徹底	・自社工事に係る教育の徹底	事業者	
29		・自社工事に係るベストプラクティスの共有	事業者	
■特定製造所内での供給支障対策				
30	○作業ミスの低減に重点を置いた教育・訓練	・適確な配送管理の実施に向けた関係者間の相互確認教育	● 事業者	
31		・ガス工作物の適切な維持管理に関する教育	事業者	
32		・ガス工作物の適確な操作手順に関する教育・訓練	● 事業者	

3. 災害対策

対 策	具体的な実施項目(●:ロードマップ参照)	実施主体	資料2-1 記載ページ
■災害対策			
33 ○設備対策	・耐震化率の一層の向上	事業者	20ページ
34	・「長柱座屈防止のための耐震設計指針(仮称)」の策定	● 事業者	20ページ
35	・支持部材損傷防止措置未実施の球形ガスホルダーの補強対策の推進	● 事業者	20ページ
36	・重要電気設備等の津波・浸水対策の推進	● 事業者	20ページ
37 ○緊急対策	・防災データベースの改善及びICT等の技術の進歩に合わせた情報システム等の継続的な見直し	● 国、事業者	22ページ
38	・防災訓練の実施	国、事業者	22ページ
39	・供給停止判断基準の見直し	● 国、事業者	22ページ
40	・液状化により著しい地盤変位が生じる可能性の高い地区の特定及びリスト化	● 事業者	22ページ
41	・自治体等により特定された盛土崩壊等の可能性のある地区のリスト化	● 事業者	22ページ
42	・作業員の安全確保に係る避難場所の確保、災害対応マニュアル類の見直し、避難訓練を含む保安教育の再徹底	事業者	22ページ
43	・非裏波溶接鋼管の特定及び関係する遮断装置のリスト化	● 事業者	22ページ
44	・津波漂流物による損傷可能性のある橋梁添架管の特定及び関係する遮断装置のリスト化	● 事業者	22ページ
45	・特定製造所における感震自動ガス遮断装置の全数設置に向けた普及促進	● 事業者	22ページ
46	・通信手段の充実	国、事業者	22ページ
47 ○復旧対策	・余震等を考慮した復旧作業員の安全に配慮した復旧活動のあり方の検討	● 事業者	23ページ
48	・復旧時における仮設配管及び導管地中残置に関する検討	● 国	23ページ
49	・移動式ガス発生設備の大容量化について検討	● 国	23ページ
50	・法定熱量測定の特例措置の検討	● 国	23ページ
51	・需要家データ、マッピングデータ等のバックアップの確保	事業者	23ページ
52	・事前届出を行っていない車両に対する緊急通行車両確認標章交付の迅速化	● 国	23ページ
53	・支援物資物流システム改善状況のフォロー	国	23ページ
■その他			
54 ○その他災害対策	・新たな災害知見の収集と設計指針等への反映の検討	国、事業者	

4. その他

対 策	具体的な実施項目(●:ロードマップ参照)	実施主体	資料2-1 記載ページ
55 ○保安人材の育成	・保安を担う国家資格制度の維持・改善	国	
56	・国家資格を基盤とした人材育成の維持・改善	事業者	
57 ○需要家に対する安全教育・啓発	・ガスの取扱いや換気の必要性等に関する基本情報の継続発信	国、事業者	
58 ○事故情報の活用・公開	・事故分析の高度化に向けた改善	国、事業者	
59	・情報公開・提供の仕組みに関する絶えざる改善	国、事業者	
60 ○水素インフラを想定した技術開発	・水素インフラ実証事業及び関連技術調査の実施	● 国、事業者	

※各シート中、「ロードマップ」欄の時期表記は、ガス安全高度化計画ロードマップから読み取った数値。

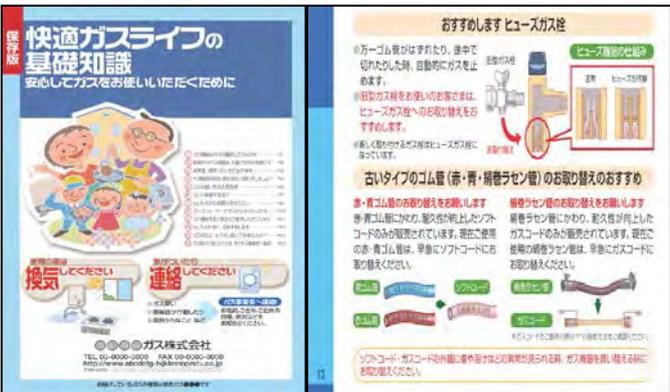
※各シート中、以下の略称を使用。

JGA: 一般社団法人日本ガス協会

JCGA: 一般社団法人日本コミュニティーガス協会

JGKA: 一般社団法人日本ガス石油機器工業会

段階		消費段階																														
対策		○安全型機器・設備の更なる普及拡大																														
具体的な実施項目		・安全型ガス機器(エコジョーズ・Siセンサーコンロ等)の普及																														
ロードマップ		—																														
実施主体		事業者、製造者																														
進捗状況	事業者 JGA JCGA	<p>○日本ガス体エネルギー普及促進協議会(日本ガス協会・日本コミュニティーガス協会・日本LPガス団体協議会)及び日本ガス石油機器工業会、キッチン・バス工業会は、平成20年4月以降の製造分について「Siセンサーコンロ(全口センサー)」の標準化を宣言し、同年10月に全口センサーが法制化された。</p> <p>□Siセンサーコンロの普及率(*累計出荷台数/**ガス使用中のお客さま件数)推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>累計出荷台数(千台)</td> <td>6,914</td> <td>8,717</td> <td>10,655</td> <td>12,352</td> </tr> <tr> <td>普及率</td> <td>27.0%</td> <td>34.1%</td> <td>41.4%</td> <td>47.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 出典: 日本ガス石油機器工業会調査 ** 出典: 日本ガス協会調査</p> <p>○平成22年6月に、日本ガス体エネルギー普及促進協議会(日本ガス協会・日本コミュニティーガス協会・日本LPガス団体協議会)及び日本ガス石油機器工業会は、平成25年3月末までに一部機器を除き「エコジョーズ(高効率ガス給湯器)」を標準化することを宣言した。</p> <p>□エコジョーズの普及率(*累計出荷台数/**ガス使用中のお客さま件数)推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>累計出荷台数(千台)</td> <td>2,012</td> <td>2,540</td> <td>3,161</td> <td>3,758</td> </tr> <tr> <td>普及率</td> <td>7.9%</td> <td>9.9%</td> <td>12.3%</td> <td>14.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 出典: 日本ガス石油機器工業会調査 ** 出典: 日本ガス協会調査</p>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	累計出荷台数(千台)	6,914	8,717	10,655	12,352	普及率	27.0%	34.1%	41.4%	47.7%		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	累計出荷台数(千台)	2,012	2,540	3,161	3,758	普及率	7.9%	9.9%	12.3%	14.5%
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																											
累計出荷台数(千台)	6,914	8,717	10,655	12,352																												
普及率	27.0%	34.1%	41.4%	47.7%																												
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																												
累計出荷台数(千台)	2,012	2,540	3,161	3,758																												
普及率	7.9%	9.9%	12.3%	14.5%																												
製造者	<p>○日本ガス体エネルギー普及促進協議会(日本ガス協会・日本コミュニティーガス協会・日本LPガス団体協議会)及び日本ガス石油機器工業会は、平成23年4月以降にガス機器メーカーが生産する全てのバランス型ふろがま(BF式ふろがま)について、ガスふろがまの更なる安全性向上への取り組みとして下記の4つの安全機能を新たに標準搭載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤操作・異常操作による異常着火防止 ・ふろ消し忘れ防止 ・冠水による機器内部焼損・異常着火防止 ・タイムスタンプ機能搭載 <p>□BFふろがま(新仕様)累計出荷台数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>累計出荷台数(千台)</td> <td>79</td> <td>149</td> <td>217</td> <td>278</td> </tr> </tbody> </table> <p>○日本ガス協会やガス事業者、日本ガス石油機器工業会、機器メーカーは、これらの安全型機器の普及拡大に向けて周知・広報活動(PRチラシの作成、キャンペーンの実施、イベントを通じたPR活動等)を実施している。</p>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	累計出荷台数(千台)	79	149	217	278																					
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																												
累計出荷台数(千台)	79	149	217	278																												

段階		消費段階																								
対策		○安全型機器・設備の更なる普及拡大																								
具体的な実施項目		・安全型の高いガス栓・接続具の普及																								
ロードマップ		—																								
実施主体		事業者、製造者																								
進捗状況	国	○「JIS S2135 ガス機器用迅速継手」及び「JIS S2146 両端迅速継手付ガス用ゴム管」の改定(平成25年11月)に伴い、ガス事業法施行規則第108条第9号及び平成12年通商産業省告示第579号「金属管、金属可とう管、両端に迅速継手の付いたゴム管及び強化ガスホースの規格並びに燃焼器とガス栓との接続方法を定める件」を平成26年8月に改正。																								
	事業者	<p>○日本ガス協会は、「ガスと暮らしの安心」運動をはじめ、ガス展、定期保安点検等の各種業務機会を通じて、安全性の高いガス栓への取替え促進を図るため以下のようなパンフレット等を製作し、ガス事業者へ提供している。ガス事業者は、これらを活用して、業務接点機会を通じて安全性の高いガス栓への取替え促進を図っている。</p> <p>①「ガスと暮らしの安心」運動を通じた周知・啓発(ポスター掲示)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス協会標準版(枚)</td> <td>9,164</td> <td>8,480</td> <td>9,897</td> <td>7,900</td> </tr> <tr> <td>事業者作成版(枚)</td> <td>320</td> <td>620</td> <td>617</td> <td>1,294</td> </tr> </tbody> </table> <p>②日本ガス協会作成パンフレット 「快適ガスライフの基礎知識」(都市ガス事業者購入ベース)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部数</td> <td>2,003,050</td> <td>1,907,600</td> <td>1,990,200</td> <td>1,965,400</td> </tr> </tbody> </table> 		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900	事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																						
ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900																						
事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294																						
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																						
部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400																						
進捗状況	事業者	<p>○ガスと暮らしの安心運動・・・需要家に対してガスの安全使用の周知・啓発や安全型機器への買い替いを促進し、消費者事故の防止を図るため毎年度実施している保安運動(日本コミュニティガス協会と日本ガス協会が主催)(継続)</p> <p>[参考]平成26年度「ガスと暮らしの安心運動」実施結果</p> <p>(1)運動参加事業者 1,351社(参加率96.8%)</p> <p>(2)ポスター掲示 7,247枚(簡易ガス団地1地点群当たり1枚掲示)</p> <p>(3)チラシ配布 798,276枚(全調定件数に対しての配布率69.3%)</p> <p>(4)その他事業者が実施した消費者事故防止の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス展で安全装置付きガス機器への買い替いを促進 ・町内会や地区防災訓練等の機会に周知活動を実施 ・新聞、ホームページ、情報誌等を活用した周知を実施 ・消防署とガス事故及びCO中毒事故の防止を啓発 ・高齢者宅に個別訪問し、機器の安全使用等について周知を実施 ・業務用厨房設備を使用しているお客様にCO中毒事故防止について周知を実施 																								
	JGKA	<p>○ガス栓及び接続具に関する注意事項について以下のHPIに掲載し注意を促している。(http://www.jgka.or.jp/consumer/gasu-riyou/anzen-gasu/gassen/index.html)</p> <p>・古いガス栓は安全な新しいガス栓(ヒューズガス栓・ガスコンセント)にお取り替えください。</p>																								

段階	消費段階	
対策	○安全型機器・設備の更なる普及拡大	
具体的な実施項目	・警報器の開発(●)	
ロードマップ	～2013年度 実施(国プロ)	
	～2014年度 製品化・商品化	
実施主体	国、事業者、製造者	
進捗状況	国	<p>○次世代高信頼性ガスセンサー技術開発事業(平成20～23年度)NEDOプロジェクトを実施。(事業予算:平成20年度98百万円、平成21年度99百万円、平成22年度81百万円、平成23年度61百万円)</p> <p>実施体制については①次世代ガスセンサー開発のための評価基盤技術の開発(日本ガス協会:平成20年度は、NEDO予算で、21～23年度は日本ガス協会の自主事業)②低消費電力ガスセンサーの開発(NEDOがメーカー6社に対して事業費の1/2を助成:平成21～23年度)</p> <p>○現在主流となっている都市ガスセンサーは、ガスを検知するためにセンサーを400℃以上に加熱すること及び交流電源が必要なことから、普及の阻害要因となっている。ナノテクノロジーによりガスセンサーを超小型化し、消費電力を現行の1/2000以下にすることにより、ガスセンサーの電池駆動によるコードレス化を実現するため、次世代ガスセンサー開発のための評価基盤技術の開発及び低消費電力センサーの開発を実施。</p> <p>○本技術開発事業の結果、次世代ガスセンサーの長期信頼性を加速評価する基盤技術を開発するとともに電池駆動が可能で長寿命(5年以上の寿命)なガスセンサーの実用化に目途が得られた。</p>
	事業者 JGA	<p>○次世代高信頼性ガスセンサー技術開発事業</p> <p>センサーメーカー6社が日本ガス協会との連携により、メーカー各社が技術を保有する検知方式について、超低消費電力かつ高信頼性を有するガスセンサーの開発を実施し、次の成果を得た。</p> <p>1. 超低消費電力および高信頼性ガスセンサー実現に必要な次の改良点を明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○半導体式COセンサー:感ガス素子の微小化、CO検知阻害物質付着抑制など ○電気化学式COセンサー:CO検知電極の改良、センサー周辺部材の改良など ○マイクロメタンセンサー:感ガス素子の微小化、ヒーター保護膜付加など <p>これにより、本事業の目標①「消費電力0.1mW以下」、②「加速評価手法により5年以上の耐久性に目処をつける」、③「JIAの警報器検査規程を満足する」を達成し、実用化開発フェーズに移行した。</p> <p>○平成25年度までの成果</p> <p>警報器に当該センサーを組み込んで電池式として市販するにあたっての実運用レベルの検討を行い、警報器が通電状態であることを容易に確認できるための方法、電池交換により有効期限切れのものが継続使用されないための対応方法の整理を実施した。</p> <p>また、電池式警報器の市販化に向けて、第三者認証機関による評価・認証を受ける必要があるため、一般社団法人日本ガス機器検査協会にて「ガス警報器検査規程等検討専門委員会」を組織し、『都市ガス用電池式ガス警報器検査規程』の制定に向けた検討を実施した。</p>
	製造者	<p>○平成26年度の成果</p> <p>一般社団法人日本ガス機器検査協会において『都市ガス用電池式ガス警報器検査規程』が制定された。</p>

段階		消費段階							
対策		○安全型機器・設備の更なる普及拡大							
具体的な実施項目		・警報器の普及							
ロードマップ		—							
実施主体		国、事業者							
進捗状況	国	<p>○経済産業省のホームページで事故が生じた際注意喚起を行っている。(以下「例」を示す。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス警報器を設置しましょう。不完全燃焼(一酸化炭素)、ガス漏れ、火災を検知する「複合型警報器」を取り付けましょう。 ・万一のガス漏れや、不完全燃焼によって発生する一酸化炭素を検知すると、ランプと音声でお知らせします。 ・「複合型警報器」は、一台で火災はもちろん3つのあんしんを24時間見守ります。 (http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/citygas/aikot-obademinaoshitai/use/home/home2.html) 							
	事業者	<p>○ガス警報器の普及促進 日本ガス協会は、「ガスと暮らしの安心」運動を通じて、ガス警報器の普及啓発ポスターを製作し、普及促進を図るべく、ガス事業者に提供している。</p> <p>▼都市ガス警報器の普及率推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39.4%</td> <td>40.0%</td> <td>40.7%</td> <td>41.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>総取付数／屋内にガス機器を所有するお客さま調定戸数 (屋内外を判定できない場合は分母を”ガス使用中のお客さま件数”とした) ※出典：日本ガス協会調査</p> <p>○日本コミュニティーガス協会では、毎年度「ガス警報器等設置促進運動」を実施しており、ポスター、チラシ等を活用した需要家への啓発や説明を行い、ガス警報器やCO警報器の普及促進を図っている。また、消防法で設置が義務化された火災警報器の設置にあわせ、複合型警報器(火災・ガス・CO)の普及促進も図っている。(継続)</p> <p>▼ガス警報器普及率(平成23～26年度)</p> <p>※出典：ガス警報器等設置促進運動の実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点普及対象：集合住宅・業務用施設・公共施設等を指す。 ・一般普及対象：一般戸建住宅等を指す。 	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	39.4%	40.0%	40.7%
平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度						
39.4%	40.0%	40.7%	41.1%						

段階		消費段階																																																															
対策		○家庭用非安全型機器の取替え促進																																																															
具体的な実施項目		・安全装置を搭載していない機器の撲滅に向けた取替え促進(●)																																																															
ロードマップ		～2019年度 実施																																																															
実施主体		国(★)、事業者(★)																																																															
進捗状況	国	<p>○経済産業省のホームページで、事故が生じた際、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <p>【平成26年4月6日 大阪府内の一般住宅の風呂釜で火災事故(人損なし)が発生。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メーカーがリコールした製品は必ず点検等を受けてください。 ・取られる措置は製品により異なりますが、無償点検や部品交換などを行うことで安全を確保します。 ・当該製品の場合は、点検と部品交換を無償で実施しています。 <p>○ガスの安全利用に関する普及啓発を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換気不良や湯沸器の排気口の詰まりなどによる不完全燃焼が原因で、一酸化炭素中毒が発生する危険があります。 ・古いガス機器は、安全装置のついた「セーフティガス機器」に早めに交換しましょう。 																																																															
	事業者	<p>○安全型機器の普及促進</p> <p>日本ガス協会は、「ガスと暮らしの安心」運動をはじめ、ガス展、定期保安点検等の各種業務機会を通じて、安全型機器への取替え促進を図るため以下のようなパンフレット等を作成し、ガス事業者へ提供している。</p> <p>ガス事業者は、これらを活用して、業務接点機会を通じて取替え促進を図っている。</p> <p>①「ガスと暮らしの安心」運動を通じた周知・啓発(ポスター掲示)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス協会標準版(枚)</td> <td>9,164</td> <td>8,480</td> <td>9,897</td> <td>7,900</td> </tr> <tr> <td>事業者作成版(枚)</td> <td>320</td> <td>620</td> <td>617</td> <td>1,294</td> </tr> </tbody> </table> <p>②日本ガス協会作成パンフレット「快適ガスライフの基礎知識」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部数</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>2,003,050</td> <td>1,907,600</td> <td>1,990,200</td> <td>1,965,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>(都市ガス事業者購入ベース)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲日本ガス協会ポスター</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲日本ガス協会パンフレット</p> </div> </div> <p>▼非安全型ガス機器の残存数推移(集計対象:開栓中需要家)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成23年度末</th> <th>平成24年度末</th> <th>平成25年度末</th> <th>平成26年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">不燃防なし小型湯沸器</td> <td>残存数(千台)</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>残存率*</td> <td>0.05%</td> <td>0.04%</td> <td>0.03%</td> <td>0.02%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">不燃防なし浴室内CFふろがま</td> <td>残存数(千台)</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>残存率*</td> <td>0.05%</td> <td>0.04%</td> <td>0.03%</td> <td>0.02%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">金網ストーブ</td> <td>残存数(千台)</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>残存率*</td> <td>0.06%</td> <td>0.05%</td> <td>0.01%</td> <td>0.01%</td> </tr> </tbody> </table> <p>*:残存数/ガス使用中の需要家件数 [出典:日本ガス協会調査]</p>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900	事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294	部数	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400			平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	不燃防なし小型湯沸器	残存数(千台)	14	9	8	6	残存率*	0.05%	0.04%	0.03%	0.02%	不燃防なし浴室内CFふろがま	残存数(千台)	13	11	9	7	残存率*	0.05%	0.04%	0.03%	0.02%	金網ストーブ	残存数(千台)	15	12	3	2	残存率*	0.06%	0.05%	0.01%
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																																																													
ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900																																																													
事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294																																																													
部数	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																																																													
	2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400																																																													
		平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末																																																												
不燃防なし小型湯沸器	残存数(千台)	14	9	8	6																																																												
	残存率*	0.05%	0.04%	0.03%	0.02%																																																												
不燃防なし浴室内CFふろがま	残存数(千台)	13	11	9	7																																																												
	残存率*	0.05%	0.04%	0.03%	0.02%																																																												
金網ストーブ	残存数(千台)	15	12	3	2																																																												
	残存率*	0.06%	0.05%	0.01%	0.01%																																																												

進捗状況	事業者	JCGA	<p>○消費段階事故防止のための広報活動を継続実施。 <家庭用需要家に対する広報活動> ①「ガスと暮らしの安心運動」において、下記の内容について周知 ・ガス機器に関する正しい使用方法、誤った使用に伴う危険性の周知 ・非安全型機器の台数把握と、安全装置付き機器への取替えの要請 ・ガスと暮らしの安心運動用ポスターの適切な場所への掲示及び消費者へチラシ等の配布による周知 ・ガス機器使用中は、換気扇を回す、窓を開けるなど、必ず換気するよう周知 ・複合型警報器の普及促進 ・ガス機器とガス栓の正しい接続方法や、間違った接続による危険性について周知 ②その他の広報活動 ・「ガス警報器等設置促進運動」において、ガス・CO警報器の設置及び交換を推進 ・日本コミュニティーガス協会と、需要家向けの周知文「ガス機器にはきちんと合う接続具の付いたゴム管をお使いください」を作成し、ガス機器とガス栓の正しい接続方法を消費者に周知</p> <p>▼非安全型ガス機器の残存数と残存率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成23年度末</th> <th>平成24年度末</th> <th>平成25年度末</th> <th>平成26年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">不燃防なし開放式ガス湯沸器</td> <td>残存数(台)</td> <td>1,635</td> <td>761</td> <td>944</td> <td>661</td> </tr> <tr> <td>残存率*</td> <td>0.13%</td> <td>0.06%</td> <td>0.08%</td> <td>0.06%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">立ち消え安全装置なしガスコンロ</td> <td>残存数(台)</td> <td>6,775</td> <td>5,126</td> <td>4,865</td> <td>4,114</td> </tr> <tr> <td>残存率*</td> <td>0.55%</td> <td>0.43%</td> <td>0.41%</td> <td>0.36%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">不燃防なし自然排気式ふろがま</td> <td>残存数(台)</td> <td>2,186</td> <td>1,627</td> <td>1,321</td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td>残存率*</td> <td>0.18%</td> <td>0.14%</td> <td>0.11%</td> <td>0.11%</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、残存率(%)は調定件数に対する割合を示す。</p>			平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	不燃防なし開放式ガス湯沸器	残存数(台)	1,635	761	944	661	残存率*	0.13%	0.06%	0.08%	0.06%	立ち消え安全装置なしガスコンロ	残存数(台)	6,775	5,126	4,865	4,114	残存率*	0.55%	0.43%	0.41%	0.36%	不燃防なし自然排気式ふろがま	残存数(台)	2,186	1,627	1,321	1,224	残存率*	0.18%	0.14%	0.11%	0.11%
		平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末																																					
不燃防なし開放式ガス湯沸器	残存数(台)	1,635	761	944	661																																					
	残存率*	0.13%	0.06%	0.08%	0.06%																																					
立ち消え安全装置なしガスコンロ	残存数(台)	6,775	5,126	4,865	4,114																																					
	残存率*	0.55%	0.43%	0.41%	0.36%																																					
不燃防なし自然排気式ふろがま	残存数(台)	2,186	1,627	1,321	1,224																																					
	残存率*	0.18%	0.14%	0.11%	0.11%																																					

段階		消費段階
対策		○業務用機器・設備の安全性向上
的な実施項目		・(COセンサーを中心とした)ガス厨房安全システムの開発(●)
ロードマップ		～2014年度 実施
実施主体		事業者、製造者
進捗状況	事業者 JGA	<p>【目的】</p> <p>○排ガスCO中毒事故防止の観点から安全装置を搭載した業務用厨房機器の開発を行い、設置を促進していく。</p> <p>【課題】</p> <p>○家庭用給湯器において市場搭載実績のある接触燃焼式COセンサーを業務用厨房内で使用した場合の耐久性の確認</p> <p>○COセンサーによる業務用厨房機器向けの制御ユニットの開発</p> <p>【経緯】</p> <p>○平成21年より都市ガス3社(東京ガス・大阪ガス・東邦ガス)と業務用厨房機器メーカー、センサーメーカーおよび日本ガス協会とで業務用厨房機器へのCOセンサー内蔵に関する共同研究として、業務用厨房機器にCOセンサーを搭載した試作を行い、業務用厨房へのモニター試験を通じてセンサー劣化要因調査を開始した。その結果、既の実績のある給湯器での実機耐久試験結果と比較して特異な劣化は見られないことを確認し、COセンサーは、給湯器での使用時と同等の耐久性が見込め、業務用厨房機器においても使用可能であることを確認した。</p> <p>○平成26年度の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COセンサーユニットを試作し、業務用厨房機器へ搭載して検証し、想定通りの動作となっていることを確認した。 ・COセンサーユニットを搭載するための業務用厨房機器用制御基板の仕様を検討した。
	製造者	 <p>業務用厨房においても使用可能であることを確認したCOセンサー</p>

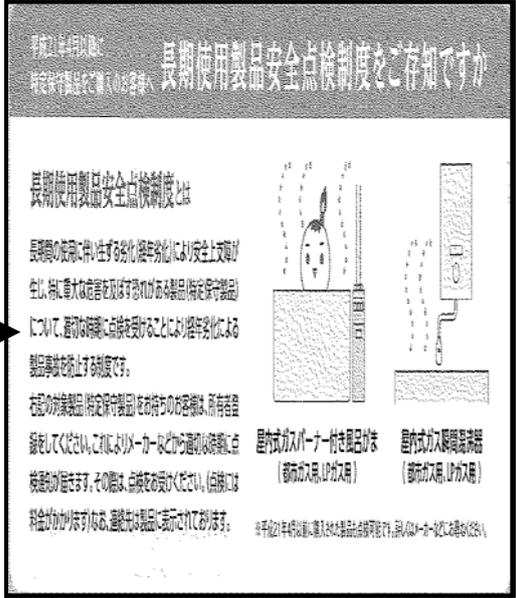
段階		消費段階
対策		○業務用機器・設備の安全性向上
具体的な実施項目		・立消え安全装置搭載業務用厨房機器の開発(●)
ロードマップ		～2014年度 実施
実施主体		事業者、製造者
進捗 状況	事業者 JGA	<p>【目的】 ○ガス漏えいによる爆発又は火災事故防止の観点から、立ち消え安全装置(※)を搭載した業務用コンロの開発を行い、設置を促進していく。</p> <p>【課題】 ○高火力での使用における安全装置センサーの耐久性に関する技術的課題 ○清掃時にバーナーを容易に脱着することができるか等の使い勝手に関する課題</p> <p>【経緯】 平成21年より都市ガス3社(東京ガス・大阪ガス・東邦ガス)と業務用厨房機器メーカー、および日本ガス協会が立消え安全装置を搭載する業務用ガスコンロに関する共同研究を立ち上げ、立ち消え安全装置を搭載したガスコンロの試作を行い、業務用厨房での実証試験を通じて、センサーの耐久性および使い勝手の評価を開始した。</p> <p>○平成25年度までの成果 3メーカーより商品化された。</p> <p>○平成26年度の成果 新たに1メーカー(株式会社フジマック)より商品化された。</p> <p><商品化の例></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">     </div> <p>オザキ株式会社 リンナイ株式会社 株式会社コメットカトウ 株式会社フジマック</p> <p>(※)立ち消え安全装置 ガス燃焼機器において、点火時、再点火時の不点火、立消えなどによるトラブルを未然に防止する安全装置</p>
	製造者	

	段階	消費段階																									
	対策	○家庭用需要家に対する安全意識の向上のための周知・啓発																									
	具体的な実施項目	・非安全型機器・経年設備の取替えのすすめ																									
	ロードマップ	—																									
	実施主体	国(★)、事業者(★)																									
進捗 状況	国	<p>○経済産業省のホームページで、事故が生じた際、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <p>【平成25年6月15日 兵庫県的一般集合住宅でBF式風呂釜からの出火による火災事故(人損なし)が発生。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古いガス機器は交換してください。 ・ガス機器やガス設備は、日頃から点検・お手入れをしてください。 <p>○ガスの安全利用に関する普及啓蒙を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換気不良や湯沸器の排気口の詰まりなどによる不完全燃焼が原因で、一酸化炭素中毒が発生する危険があります。 ・古いガス機器は、安全装置のついた「セーフティガス機器」に早めに交換しましょう。 																									
	JGA	<p>○「ガスと暮らしの安心」運動をはじめ、ガス展、定期保安点検等の各種業務機会を通じて、非安全型機器・経年設備の取替え促進を図るため以下のようなパンフレット等を作成し、ガス事業者へ提供している。ガス事業者は、これらを活用して、業務接点機会を通じて非安全型機器・経年設備の取替え促進を図っている。</p> <p>①「ガスと暮らしの安心」運動を通じた周知・啓発(ポスター掲示)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス協会標準版(枚)</td> <td>9,164</td> <td>8,480</td> <td>9,897</td> <td>7,900</td> </tr> <tr> <td>事業者作成版(枚)</td> <td>320</td> <td>620</td> <td>617</td> <td>1,294</td> </tr> </tbody> </table> <p>②日本ガス協会作成パンフレット「快適ガスライフの基礎知識」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部数</td> <td>2,003,050</td> <td>1,907,600</td> <td>1,990,200</td> <td>1,965,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>(都市ガス事業者購入ベース)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p>▲日本ガス協会ポスター ▲日本ガス協会パンフレット</p>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900	事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																						
ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900																							
事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294																							
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																							
部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400																							
事業者	JCGA	<p>○消費段階事故防止のための広報活動を継続実施。</p> <p><家庭用需要家に対する広報活動></p> <p>①「ガスと暮らしの安心運動」において、下記の内容について周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス機器に関する正しい使用方法、誤った使用に伴う危険性の周知 ・非安全型機器の台数把握と、安全装置付き機器への取替えの要請 ・ガスと暮らしの安心運動用ポスターの適切な場所への掲示及び消費者ヘチラシ等の配布による周知 ・ガス機器使用中は、換気扇を回す、窓を開けるなど、必ず換気するよう周知 ・複合型警報器の普及促進 ・ガス機器とガス栓の正しい接続方法や、間違った接続による危険性について周知 <p>②その他の広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ガス警報器等設置促進運動」において、ガス・CO警報器の設置及び交換を推進 ・日本コミュニティーガス協会で、需要家向けの周知文「ガス機器にはきちんと合う接続具の付いたゴム管をお使いください」を作成し、ガス機器とガス栓の正しい接続方法を消費者に周知 																									

段階	消費段階																									
対策	○家庭用需要家に対する安全意識の向上のための周知・啓発																									
具体的な実施項目	・機器使用時の換気励行のお願い																									
ロードマップ	—																									
実施主体	国(★)、事業者(★)																									
進捗状況	国	<p>○経済産業省のホームページで、事故が生じた際、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <p>【平成26年3月17日 兵庫県内の一般集合住宅で給湯器使用による一酸化炭素中毒事故(軽症1名)が発生。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガスが燃焼するには新鮮な空気(酸素)が必要です。空気が不足すると、不完全燃焼を起こし、一酸化炭素中毒の原因となり、死亡事故につながる場合があります。 ・ガス機器を使用するときは、換気をしましょう。必ず換気装置等を使用してください。また、同時に給気口を確保する等により新鮮な空気を取り入れることも換気のために必要です。 ・ガス機器の排気が十分に行われないと、排気ガスが室内にあふれて、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。 <p>○ガスの安全利用に関する普及啓発を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガスは、新鮮な空気を求めています。 ・換気が不十分な状態でガスが燃焼すると、不完全燃焼となり、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。 ・換気扇を回すか、窓を開けるなど必ず換気をしましょう。 																								
	事業者	<p>○換気の励行啓発</p> <p>日本ガス協会は、「ガスと暮らしの安心」運動をはじめ、ガス展、定期保安点検等の各種業務機会を通じて、換気の励行を啓発するため以下のようなパンフレット等を製作し、ガス事業者へ提供している。ガス事業者は、これらを活用して、業務接点機会を通じて換気の励行のお願いをしている。</p> <p>①「ガスと暮らしの安心」運動を通じた周知・啓発(ポスター掲示)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガス協会標準版(枚)</td> <td>9,164</td> <td>8,480</td> <td>9,897</td> <td>7,900</td> </tr> <tr> <td>事業者作成版(枚)</td> <td>320</td> <td>620</td> <td>617</td> <td>1,294</td> </tr> </tbody> </table> <p>②日本ガス協会作成パンフレット「快適ガスライフの基礎知識」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部数</td> <td>2,003,050</td> <td>1,907,600</td> <td>1,990,200</td> <td>1,965,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>(都市ガス事業者購入ベース)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲日本ガス協会ポスター</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲日本ガス協会パンフレット</p> </div> </div>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900	事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																						
ガス協会標準版(枚)	9,164	8,480	9,897	7,900																						
事業者作成版(枚)	320	620	617	1,294																						
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																						
部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400																						

		<p>○消費段階事故防止のための広報活動を継続実施。 <家庭用需要家に対する広報活動></p> <p>①「ガスと暮らしの安心運動」において、下記の内容について周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス機器に関する正しい使用方法、誤った使用に伴う危険性の周知 ・非安全型機器の台数把握と、安全装置付き機器への取替えの要請 ・ガスと暮らしの安心運動用ポスターの適切な場所への掲示及び消費者ヘチラン等の配布による周知 ・ガス機器使用中は、換気扇を回す、窓を開けるなど、必ず換気するよう周知 ・複合型警報器の普及促進 ・ガス機器とガス栓の正しい接続方法や、間違った接続による危険性について周知 <p>②その他の広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ガス警報器等設置促進運動」において、ガス・CO警報器の設置及び交換を推進 ・日本コミュニティーガス協会で、需要家向けの周知文「ガス機器にはきちんと合う接続具の付いたゴム管をお使いください」を作成し、ガス機器とガス栓の正しい接続方法を消費者に周知 <p>○経済産業省の協力依頼(平成26年4月16日付け)を受け、陶芸用窯を使用する際の一酸化炭素中毒事故防止に関する注意喚起について、協会支部を通じて事業者に周知を行った。(平成26年4月18日実施)</p>
--	--	---

段階	消費段階																														
対策	○長期使用製品安全点検制度に基づく家庭用機器の経年劣化対応																														
具体的な実施項目	・周知活動と所有者票回収率向上策の実施																														
ロードマップ	—																														
実施主体	国(★)、事業者(★)、製造者(★)																														
進捗状況	国	<p>○当該制度のガイドラインを改定し、所有者票の改善(視認性の向上、記載事項の簡素化等)、所有者票の代行記入が可能であること等について記載を追加する等、本制度の一層の定着に向けた運用の見直しを実施。</p> <p>○関連する事業者に対して、文書を発出し、ガイドラインの改定内容の周知を図るとともに、取引先の事業者や消費者への本制度の周知を要請。また、当該製品を販売する販売事業者等に対して所有者への説明義務の徹底、設置・修理等を行う関連事業者(設置工事事業者、不動産販売事業者など)に対して販売事業者に協力し所有者への制度説明等の取組を行うことを要請。</p> <p>○消費者に対して、消費者団体と協力し消費者向けの広報資料・リーフレット等を作成し、周知を実施。</p> <p>○経済産業省と事業者等による連絡会を開催し、特定製造事業者等の取組によるベストプラクティス等の情報を共有。</p>																													
	事業者	<p>○周知活動: 「ガスと暮らしの安心」運動をはじめ、ガス展、定期保安点検等の各種業務機会を通じて、長期使用製品安全点検制度に基づく家庭用機器の経年劣化対応に関わる内容について以下のようなパンフレット等を作成し、ガス事業者へ提供している。ガス事業者は、これらを活用して、業務接点機会を通じて周知を図っている。</p> <p>日本ガス協会作成パンフレット「快適ガスライフの基礎知識」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部数</td> <td>2,003,050</td> <td>1,907,600</td> <td>1,990,200</td> <td>1,965,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>(都市ガス事業者購入ベース) ▼日本ガス協会パンフレット</p>  <p>○設置事業者が制度を理解し、機器の設置時に使用者に適切に説明し、登録を促すため、機器設置者の資格である「ガス機器設置スペシャリスト」(GSS)を運営する「ガス機器設置技能士各制度運営委員会」に提案承認を得て、平成24年度より、当制度を講習テキストに追加し、新規講習・更新講習で説明している。</p> <p>▼GSS資格登録状況(年度末)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GSS登録者数</td> <td>14,387</td> <td>14,335</td> <td>14,057</td> <td>13,553</td> </tr> <tr> <td>GSS新規講習受講者数</td> <td>666</td> <td>663</td> <td>687</td> <td>707</td> </tr> <tr> <td>GSS更新講習修了者数</td> <td>2,875</td> <td>3,558</td> <td>4,390</td> <td>2,873</td> </tr> </tbody> </table> 		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	GSS登録者数	14,387	14,335	14,057	13,553	GSS新規講習受講者数	666	663	687	707	GSS更新講習修了者数	2,875	3,558	4,390
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																											
部数	2,003,050	1,907,600	1,990,200	1,965,400																											
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																											
GSS登録者数	14,387	14,335	14,057	13,553																											
GSS新規講習受講者数	666	663	687	707																											
GSS更新講習修了者数	2,875	3,558	4,390	2,873																											

進捗状況	事業者	JCGA	<p>○長期使用製品安全点検制度が開始された平成21年4月より、法定周知チラシにより制度を紹介している。(継続)</p> <p>▼ 全需要家に対する一般的な法定周知チラシ</p>  <p>▼ 長期使用製品安全点検制度についての周知内容</p> 
	製造者	JGKA	<p>○長期使用製品安全点検制度については、以下に示すHPにより周知を行っている。(http://www.jgka.or.jp/information/2009/20090401.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定保守製品取引事業者向けに「長期使用製品安全点検制度」パンフレットを工業会で作成し、同様に以下のHPにより公表している。(http://www.jgka.or.jp/information/2009/pdf/2009_02_00_choki-shiyo-seihin_chirashi.pdf)

段階	消費段階									
対策	○業務用需要家に対する安全意識の向上のための周知・啓発									
具体的な実施項目	・消費機器・給排気設備のメンテナンスのお願い									
ロードマップ	—									
実施主体	国(★)、事業者(★)									
進捗状況	国	<p>○食品工場及び業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故の防止の協力要請文をガス事業者に対し、発出した。CO中毒事故省庁連絡会議の関係省庁(消防庁、厚生労働省、文科省、農水省、国交省)に対して、協力要請文の発出を行った。(平成26年7月7日付け)</p> <p>○業務用需要家を所掌する関係省庁等(国土交通省、農林水産省、文部科学省等7府省庁)との間で「業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故連絡会議」を開催、CO中毒の発生状況や取り組み状況を共有(平成26年5月開催)</p> <p>○経済産業省のホームページで、事故が生じた際、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) 【平成26年7月13日 兵庫県の特定地下室で業務用自動食器洗浄機使用による一酸化炭素中毒事故(軽症1名)が発生。] ・ガス機器やガス設備は、日頃から点検・お手入れをしてください。 ・日頃からの点検・お手入れが、ガスによる事故を防ぐ基本です。 ・日頃の点検を心がけ、不審な点が見つかったらガス事業者などに連絡して、すぐに改善してください。 さらに、これらの事故情報は、業務用需要家に関係する関係省庁等(国土交通省、農林水産省、文部科学省等7府省庁)と共有。</p> <p>○ガスの安全利用に関する普及啓発を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) ・ガス機器の給排気口や換気設備の吸い込み口は、油やほこり等がたまりやすくなり、給気・換気不足になる恐れが生じます。 ・日頃より“換気”を効果的に行えるような点検・清掃が必要です。 ・またガス機器・換気設備は長い間使用していると消耗劣化等により、事故の原因になることもあります。ガス機器メーカー等へ定期的なメンテナンスの依頼をお願いします。</p>								
	事業者	<p>○業務用需要家に対する定期保安点検や各種業務機会を通じて、右図のパンフレット等を用いて消費機器・給排気設備の換気やメンテナンスに関する周知・啓発を実施するよう、ガス事業者に対して支援している。</p> <p>▼業務用厨房でガスをお使いのみなさまへの周知パンフレット『ガス機器の正しい使い方』の配布状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57,820部</td> <td>51,500部</td> <td>57,800部</td> <td>75,050部</td> </tr> </tbody> </table> <p>(都市ガス事業者 購入ベース)</p> 	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	57,820部	51,500部	57,800部	75,050部
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度						
57,820部	51,500部	57,800部	75,050部							
JCGA	<p>○業務用需要家に対する広報活動を継続実施。 ・「ガスと暮らしの安心運動」において、業務用厨房等の需要家に「ガス機器使用中の換気」「給排気口や排気装置の清掃」「煙突、排気ダクトの詰まり、割れ、外れのチェック」「従業員への安全教育」の強化を要請。 ・業務用厨房でガスを使用する方に対して、ガス機器の正しい使い方や事故防止について取りまとめた冊子「ガス機器の正しい使い方」を配布。 ・業務用厨房でのCO中毒を防止するため、業務用換気警報器やCO警報器の設置について基準とチェックポイントを記載した周知チラシ「正しく設置しましょうCOを検知する警報器」をガス事業者へ配布。</p> <p>○経済産業省の協力要請(平成26年7月7日付け)を受け、食品工場及び業務用厨房施設における一酸化炭素中毒の防止について協会支部を通じて事業者へ周知・啓発を行った。(平成26年7月10日付け)</p>									

	段階	消費段階							
	対策	○業務用需要家に対する安全意識の向上のための周知・啓発							
	具体的な実施項目	・換気の励行のお願い							
	ロードマップ	—							
	実施主体	国(★)、事業者(★)							
進捗状況	国	<p>○食品工場及び業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故の防止の協力要請文をガス事業者に対し、発出した。この旨CO中毒事故省庁連絡会議の関係省庁(消防庁、厚生労働省、文科省、農水省、国交省)に対して、協力要請文の発出を行った。(平成26年7月7日付け)</p> <p>○業務用需要家を所掌する関係省庁等(国土交通省、農林水産省、文部科学省等7府省庁)との間で「業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故連絡会議」を開催、CO中毒の発生状況や取り組み状況を共有(平成26年5月開催)</p> <p>○経済産業省のホームページで、事故が生じた際、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) 【平成26年9月4日 山口県的一般業務用建物でゆで麺器(開放燃焼式)等使用による一酸化炭素中毒事故(軽症2名)が発生。】 ・ガスが燃焼するには新鮮な空気(酸素)が必要です。空気が不足すると、不完全燃焼を起こし、一酸化炭素中毒の原因となり、死亡事故につながることがあります。 ・ガス機器を使用するときは、換気をしてください。必ず換気装置等を使用してください。また、同時に換気口を確保する等により新鮮な空気を取り入れることも換気のために必要です。 ・ガス機器の排気が十分に行われないと、排気ガスが室内にあふれて、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。 さらに、これらの事故情報は、業務用需要家に関係する関係省庁等(国土交通省、農林水産省、文部科学省等7府省庁)と共有。</p> <p>○ガスの安全利用に関する普及啓蒙を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) ・ガスが燃焼するには新鮮な空気(酸素)が必要です。 ・空気が不足すると、不完全燃焼をおこし、一酸化炭素中毒の原因となり、死亡事故につながることがあります。 ・ガス機器を使用するときは、必ず換気扇を回すか、換気装置を動かし、換気をしましょう。</p>							
	事業者	<p>○業務用需要家に対する定期保安点検や各種業務機会を通じて右図のパンフレット等を用いて消費機器・給排気設備の換気やメンテナンスに関する周知・啓発を実施するよう、ガス事業者に対して支援している。</p> <p>▼業務用厨房でガスをお使いのみなさまへの周知パンフレット『ガス機器の正しい使い方』の配布状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57,820部</td> <td>51,500部</td> <td>57,800部</td> <td>75,050部</td> </tr> </tbody> </table> <p>(都市ガス事業者 購入ベース)</p>  <p>○業務用需要家に対する広報活動を継続実施。 ・「ガスと暮らしの安心運動」において、業務用厨房等の需要家に「ガス機器使用中の換気」「給排気口や排気装置の清掃」「煙突、排気ダクトの詰まり、割れ、外れのチェック」「従業員への安全教育」の強化を要請。 ・業務用厨房でガスを使用する方に対して、ガス機器の正しい使い方や事故防止について取りまとめた冊子「ガス機器の正しい使い方」を配布。 ・業務用厨房でのCO中毒を防止するため、業務用換気警報器やCO警報器の設置について基準とチェックポイントを記載した周知チラシ「正しく設置しましょうCOを検知する警報器」をガス事業者に配布。</p> <p>○経済産業省の協力要請(平成26年7月7日付け)を受け、食品工場及び業務用厨房施設における一酸化炭素中毒の防止について協会支部を通じて事業者にも周知・啓発を行った。(平成26年7月10日付け)</p>	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	57,820部	51,500部	57,800部
平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度						
57,820部	51,500部	57,800部	75,050部						

	段階	消費段階
	対策	○業務用需要家に対する安全意識の向上のための周知・啓発
	具体的な実施項目	・警報器の設置のすすめ、警報器作動時の対応
	ロードマップ	—
	実施主体	国(★)、事業者(★)
	国	<p>○食品工場及び業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故の防止の協力要請文をガス事業者に対し、発出した。CO中毒事故省庁連絡会議の関係省庁(消防庁、厚生労働省、文科省、農水省、国交省)に対して、協力要請文の発出を行った。(平成26年7月7日付け)</p> <p>○業務用需要家を所掌する関係省庁等(国土交通省、農林水産省、文部科学省等7府省庁)との間で「業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故連絡会議」を開催、CO中毒の発生状況や取り組み状況を共有(平成26年5月開催)</p> <p>○経済産業省のホームページで、事故が生じた際、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) 【平成26年9月4日 山口県の一般業務用建物でゆで麺器(開放燃焼式)等使用による一酸化炭素中毒事故(軽症2名)が発生。】 ・「ガス漏れ」及び「不完全燃焼によって発生した一酸化炭素」を検知できる警報器(ガス・CO警報器)の設置をお勧めします。 ・「ガス漏れ」及び「不完全燃焼によって発生した一酸化炭素」を検知すると、ランプと音声でお知らせします。 ・ガスの種類によってはガス警報器とCO警報器をそれぞれ設置する必要があります。さらに、これらの事故情報は、業務用需要家に関係する関係省庁等(国土交通省、農林水産省、文部科学省等7府省庁)と共有。</p> <p>○ガスの安全利用に関する普及啓発を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) ・ガス・CO警報器を設置しましょう。 ・ガス漏れや、不完全燃焼によって発生した一酸化炭素を検知すると、ランプと音声でお知らせします。 ・ガスの種類によっては、不完全燃焼警報器とガス漏れ警報器をそれぞれ設置する必要があります。</p>
進捗状況	事業者	<p>○警報器の設置のすすめ、警報器作動時の対応のお願い 日本ガス協会は、定期保安点検等の各種業務機会を通じて、業務用需要家に対して、一酸化炭素(CO)を検知できる警報器の設置のすすめ、警報器作動時の対応のお願いをするため以下のようなパンフレット等を製作し、ガス事業者へ提供している。 ガス事業者は、これらを活用して、警報器の設置のすすめ、警報器作動時の対応を依頼している。</p> <p>○厨房環境に適した「業務用換気警報器」がラインナップされており、業務用厨房を持つ需要家には業務用換気警報器のすすめを実施し、設置実績のある事業者も増えている。</p> <p>平成26年度末 159事業者 平成25年度末 152事業者 平成24年度末 142事業者 平成23年度末 131事業者 (日本ガス協会調べ)</p> <p>○ガス協会作成パンフレット「安心ワークガイド」 平成26年度 58,000部 平成25年度 107,850部 平成24年度 79,690部 平成23年度 133,530部 (都市ガス事業者購入ベース)</p> <p>▼日本ガス協会パンフレット</p> 
	JGA	

	JCGA	<p>○業務用需要家に対する広報活動を継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ガスと暮らしの安心運動」において、業務用厨房等の需要家に「ガス機器使用中の換気」「給排気口や排気装置の清掃」「煙突、排気ダクトの詰まり、割れ、外れのチェック」「従業員への安全教育」の強化を要請。 ・業務用厨房でガスを使用する方に対して、ガス機器の正しい使い方や事故防止について取りまとめた冊子「ガス機器の正しい使い方」を配布。 ・業務用厨房でのCO中毒を防止するため、業務用換気警報器やCO警報器の設置について基準とチェックポイントを記載した周知チラシ「正しく設置しましょうCOを検知する警報器」をガス事業者に配布。 <p>○経済産業省の協力要請(平成26年7月7日付け)を受け、食品工場及び業務用厨房施設における一酸化炭素中毒の防止について協会支部を通じて事業者にも周知・啓発を行った。(平成26年7月10日付け)</p>
--	------	---

段階	消費段階
対策	○関係事業者の安全意識向上のための周知・啓発
具体的な実施項目	・(主に給排気設備の)設備設計・工事に関する指導(●)
ロードマップ	～2014年度 制度化検討 ～2019年度 制度化
実施主体	国(☆)
進捗状況	<p>国</p> <p>○「ガス機器の設置基準及び実務指針」(一般財団法人日本ガス機器検査協会発行、経済産業省ガス安全室監修)の見直し作業(平成25年度発行)を実施中。</p> <p>・開放廊下について、廊下幅の相違による開口条件の明確化、開放廊下に面した給気口、換気口の設置条件の見直し</p> <p>・インナーバルコニーについて、FE式・FF式トップの設置基準、インナーバルコニーに面した給気口、換気口の設置条件の見直し</p> <p>○同指針に記載された給排気設備のメンテナンスに関する記述を参考に、関係省庁等と実効性ある対策の具体化に向け、検討を進める予定。</p>

	段階	消費段階								
	対策	○関係事業者の安全意識向上のための周知・啓発								
	具体的な実施項目	・(建物塗装養生時等の)注意事項に関する周知・啓発								
	ロードマップ	—								
	実施主体	国(☆)、事業者(☆)								
進捗状況	国	<p>○国土交通省に対し、建物外装工事の際、工事業者が養生用ビニールシート等で各戸のガス機器の給排気口を塞いだ状態で、住民がガス機器を使用した場合、不完全燃焼を起こし、CO中毒を起こすおそれがあることから、工事業者に対する注意喚起に関する協力依頼を行った。(平成26年11月19日付け) また、ガス事業者関係団体に当該事故防止対策に関する協力依頼を行った。(同日付け) ※周知文は別紙。</p> <p>○業務用需要家に関する関係省庁等(国土交通省、農林水産省、文部科学省等7府省庁)と「業務用厨房施設における一酸化炭素中毒事故連絡会議」を開催、CO中毒の発生状況や取り組み状況を共有(平成26年5月開催)</p> <p>○経済産業省HPにおける、事故後の注意喚起の例 【平成26年1月21日 東京都内の一般集合住宅において、RF式瞬間湯沸器を使用中にCO中毒(負傷3名)が発生。】</p> <p>・塗装等事業者の皆様へ ガス機器の給・排気口又はその周囲がビニールシートなどにより塞がれていると不完全燃焼となり一酸化炭素中毒事故となるおそれがあります。工事に際して養生を行う際は以下の事項の対応をお願いいたします。</p> <p>・養生を行う場合は、ガス機器の給気部及び排気部を塞がないこと。 ・やむを得ずガス機器の給気・排気部をビニールシート等で塞ぐ場合には、当該ビニールシート等を取り除くまでは絶対にガス機器を使用しないよう、住人への周知を徹底すること。 ・工事終了後は、速やかに養生のためのビニールシート等を外すこと。</p> <p>○ガスの安全利用に関する普及啓発を行う経済産業省の専用HP「ガス安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <p>・外壁塗装工事の際に、給排気筒(煙突)・換気扇・給排気口・屋外式給湯器などをビニールなどで覆ったままの状態ではガス機器を使用すると、すぐ消えてしまったり、新鮮な空気が不足して不完全燃焼により一酸化炭素(CO)中毒の原因や、ガス機器が異常着火を起こして破損や火災の原因となり大変危険です。</p>								
	事業者	<p>○経済産業省の協力依頼(平成26年11月19日付け)を受け、塗装工事中や工事終了直後において、給排気設備が塞がれていないことを確認した後にガス機器を使用するよう、業務機会等を利用して周知を行うことについて、需要家への注意喚起の継続実施を都市ガス事業者(207社)に依頼した。(平成26年12月1日)</p> <p>○外壁清掃・塗装工事業者へのお願いちラシ等を用いた関係事業者等への周知・啓発の継続</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,100部</td> <td>38,600部</td> <td>30,200部</td> <td>69,500部</td> </tr> </tbody> </table> <p>(都市ガス事業者 購入ベース)</p> 	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	12,100部	38,600部	30,200部	69,500部
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度						
12,100部	38,600部	30,200部	69,500部							
JCGA	<p>○経済産業省の協力依頼(平成26年11月19日付け)を受け、住宅塗装工事等におけるガス機器の給気部又は排気部の閉そくによる一酸化炭素中毒事故の防止について協会支部を通じて事業者へ周知・啓発を行った。(平成26年11月27日付け)</p>									

段階	供給段階及び製造段階
対策	○道路・需要家敷地内共通の事故対策
具体的な実施項目	・他工事事故対策等に係る他省庁との連携(●)
ロードマップ	～2014年度 検討
実施主体	国
進捗状況	<p>国</p> <p>○国土交通省建設市場整備課及び厚生労働省安全課建設安全対策室に対して、建設工事等におけるガス管損傷事故の再発防止のため、他工事に係る事業者等に対し、工事前のガス事業者への照会・工事の際の立会い等の要請を行っていただくよう、協力要請を行った。(平成26年11月19日付け)また、ガス事業者団体にも当該事故防止対策について協力依頼を行った。(同日付け)</p>

段階		供給段階及び製造段階							
対策		○需要家数地内における事故対策							
具体的な実施項目		・他工事事業者・作業員、建物管理者等への周知活動							
ロードマップ		—							
実施主体		国(☆)、事業者(☆)							
進捗状況	国	<p>○経済産業省のホームページで注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) 【平成23年2月14日 福井県の建物解体工事の際、作業員がガス管を切断したため、ガス爆発が発生(重傷:2名、軽傷:1名)。本件では、解体工事業者は略式起訴された。】 ・建物の解体や大規模な改築工事を行うときは、必ず都市ガス事業者に連絡してください。 ・ガス管かどうか判断できない管があるときは、都市ガス事業者に連絡してください。</p> <p>○ガスの安全利用に関する普及啓発を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。) ・敷地内で工事を行う際は、工事の前にガス管の一をしっかりと確認。 ・ガス管の位置や深さが不明な場合、ガス管の撤去・移設工事が必要な場合、その他、必要に応じてガス事業者にご相談ください。</p> <p>○建設業事故防止に関する日本建設業連合会との意見交換会を実施(平成26年10月)。</p>							
	事業者	<p>○日本ガス協会は他工事事業者・業界団体等に対する注意喚起を実施している。 【建設業労働災害防止協会】 ・「建設業労働災害防止全国大会」における講演発表(平成23年10月、平成26年9月) ・「建設業労働災害防止全国大会」におけるブース展示(平成24年10月) ・「建設業労働災害防止全国大会」におけるチラシ等配布(平成23年10月、平成24年10月、平成25年10月、平成26年9月) 【日本建設業連合会】 ・「ガス損傷事故防止に関する意見交換会」出席(平成26年10月) ・「地下埋設物事故防止講習会」における講演発表(平成26年11月) ・「地下埋設物事故防止講習会」におけるチラシ等配布(平成26年11月) 【全国建設業協会】 ・同協会会誌「全件ジャーナル」への広告掲載(平成26年1月) 【住宅生産団体連合会】 ・同会「分科会」における講演発表(平成26年6月) 【全国解体工事業者連合会】 ・同会会誌「メビウス」への広告掲載(平成26年3月) ・同会資格更新講習会における資料配布(平成27年2月) その他、上記を含む14団体(厚労省傘下1団体、国交省傘下13団体)への訪問、PR、及びチラシ、DVD等配布(平成26年度7,000セット)</p> <p>・国の都市ガス安全情報広報事業によるチラシ、ポスター等を用いたガス事業者による他工事事業者等への周知活動を実施した。</p> <table border="1"> <tr> <td>平成23年度</td> <td>平成24年度</td> <td>平成25年度</td> <td>平成26年度</td> </tr> <tr> <td>15,500部</td> <td>25,500部</td> <td>35,000部</td> <td>25,200部</td> </tr> </table> <p>(都市ガス事業者 購入ベース) ※右の他工事事業者への注意喚起チラシは、平成23年度より日本ガス協会の標準的な周知チラシとして事業者へ活用の斡旋をしている。</p> 	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	15,500部	25,500部	35,000部
平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度						
15,500部	25,500部	35,000部	25,200部						

<p>進捗状況</p>	<p>事業者</p>	<p>JCGA</p>	<p>○都市ガス安全情報広報事業による、経済産業省作成のチラシ、ポスター等を用いたガス事業者による他工事事業者等への周知活動を実施した。</p> <p>○他工事事業者に対し、工事事業者による事故防止対策の啓発等を継続実施。 対象他工事事業者は、上下水道、道路、土木、建築、電気関係 なお、啓発等を実施した場所は主に道路調整会議、地下埋設物災害対策協議会等。</p> <p>(平成23～26年度に啓発を実施した他工事事業者数)</p> <table border="1" data-bbox="497 398 997 452"> <tr> <td>平成23年度</td> <td>平成24年</td> <td>平成25年度</td> <td>平成26年</td> </tr> <tr> <td>約12,000社</td> <td>約11,900社</td> <td>約13,700社</td> <td>約12,700</td> </tr> </table> <p>※出典：保安点検検査推進運動実施結果</p> <p>○ガス事故の防止を目的とし、毎年度実施している「保安向上キャンペーン」において、平成25年度は他社工事事業者に向けた事故防止のために注意すべき事をまとめたチラシを作成し、周知活動を実施した。</p> <p style="text-align: center;">▼他工事事業者への注意喚</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>○経済産業省より厚生省及び国交省の関係部署宛だされた、通達「建設工事におけるガス管損傷事故の防止について(協力依頼)」(平成26年11月19日付け)を受けて、協会支部より上記通達に関連する他工事事業者団体の支部事務局宛等に同趣旨の協力依頼を通知した。(平成26年11月27日付け)</p>	平成23年度	平成24年	平成25年度	平成26年	約12,000社	約11,900社	約13,700社	約12,700
平成23年度	平成24年	平成25年度	平成26年								
約12,000社	約11,900社	約13,700社	約12,700								

段階		供給段階及び製造段階
対策		○道路における事故対策
具体的な実施項目		・防護協定の締結
ロードマップ		—
実施主体		事業者(☆)
進捗状況	事業者	<p>○ガス事業者へ、日本ガス協会が作成した保安に関する協定書の例を示した上で、以下の方法により、防護協定未締結企業者と協定の締結促進を実施している。</p> <p>①企業者間の協定については、道路調整会議等の機会を活用して協定の締結の重要性を訴求。 ②工事毎の協定については、大規模他工事等において、他工事届出内容に応じた個別工事単位で協定の締結を実施。</p> <p>○ガス事業者は、道路調整会議等で、ガス事故防止のガイドブック等を活用して、防護協定締結の重要性を含めて、他工事事故防止の周知を継続的に実施。</p> <p style="text-align: center;"><ガイドブックの表紙></p> 
	JCGA	<p>○保安点検・検査推進運動(通年)において、ガス事業者に、保安規程に基づき道路調整会議の場等を活用して他工事事故防止の周知を実施するよう要請している。また、日本コミュニティーガス協会からガス事業者に対して配布した「ガス事故防止のおねがい」(ハンドブック)では、事故防止ポイントの一つとして、他工事業者から工事の照会や事前の打ち合わせについて記載しており、この「ガス事故防止のおねがい」も活用し事故防止を図っている。(継続)</p> <p style="text-align: center;">▼ガス事故防止のおねがい(ハンドブック)</p>  <p style="text-align: center;">—— ガス事故防止のポイント ——</p> <p style="text-align: center;">工事の照会、事前の打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 工事を計画されました際は、必ずご連絡をしてください。 ● ガス管が埋設されていることが、あらかじめわかっている場合は、ガス事業者へ直接連絡してください。わからない場合は、市町村役場で埋設ガス管の占有状況を確認し、ガス管が埋設されているれば、役場の照会によりガス事業者へ連絡してください。 ● 着工に先立ち工事の概要(工法・工期・工程)を打ち合わせてください。 



▼他工事管理記録表

平成22年度保安向上キャンペーン

事故「ZERO」への挑戦

他工事事故防止のための管理記録表を作成しましょう。

他工事管理記録表

保安情報
第24号 他工事の危険情報を受けたときは、その結果を記録する。

【記載要領】

1. 集約
 - ① 他工事の範囲を確認し、当該他ガス事業の責任者から記入する。
 - ② 工事種別、内容、工事場所、施工業者、現場責任者を明確にし、工事期間、当該ガス事業の担当部署、場所、内容等を記載する。
 - ③ 関係法規に基づいて管理記録の記載を完了する。
 - ④ 受付方法及び方法を当該他工事の担当部署に他工事管理記録表を提出する。
2. 伝達
 - ① ガス責任者等又はガス主任技術者より伝達を受けた場合は、管理記録の取組、実施に必要の範囲で担当部署の担当者等に伝達し、必要に応じて、関係部署の他工事管理記録表を作成する。
 - ② 関係部署には、工事の進捗に必要となる管理記録を記載する。
 - ③ お断りの事項には、当該他工事の担当部署に伝達する。
 - ④ 他工事管理記録表を工事完了後に提出する。
 - ⑤ 他工事管理記録表を記入し、伝達記録を記載し、印刷する。
3. 記録の保存
 - ① 他工事終了後、記録が完成した場合は、他工事管理記録表を記録する。
 - ② 他工事終了後、記録が完成した場合は、他工事管理記録表を記録する。
4. 記録の管理
 - ① 記録は、半年以上保存する。ただし、事故の記録は3年間保存する。

社団法人 日本簡易ガス協会

平成19年度 保安向上キャンペーン 平成19年6月1日～8月31日

...他工事企業者による...

ガス事故を防止しよう!

重点実施項目

連絡のお願い(周知徹底を)

他工事の危険情報を受けたときは、その結果を記録する。

他工事企業者と協定を!

他工事の危険情報を受けたときは、その結果を記録する。

工事前に連絡をもらいましょう

連絡がなければ、事前に連絡をもらいましょう。

他工事を把握しましょう

他工事の危険情報を受けたときは、その結果を記録する。

連絡担当者を伝えておきましょう

私に連絡ください!!
〇〇ガスの〇〇です。

社団法人 日本簡易ガス協会

ガス事故防止のポイント

工事の開始、一部の開始、工事現場、工事途中

※工事を計画された際は、必ずご連絡をください。

※ガス管が埋設されていることが、あらかじめわかっている場合は、ガス事業者へ直接連絡してください。わからない場合は、市町村役場で連絡した方が、後場の調査によりガス事業者へ連絡してください。

※着工に先立ち工事の概要(工法、工期、工種)を打合せてください。

※ガス管の位置及びガス管の防護方法を確認してください。

※作業に先立ち、ガス管及びマンホールの位置を、壁面に明らかに作業関係者全員(掘削オペレーターさんも含む)に徹底してください。

※ガス管付近は手掘りにしてください。

※ガス管が露出したら吊り、受け、固定措置などを正しく行ってください。

※沿道の家庭の供給管は、歩道部や敷設民地側の浅い場所にあることが多いため、特に注意をしてください。

※露出したガス管には、ガス事業者との協議内容に従って、管埋防護措置などを行ってください。

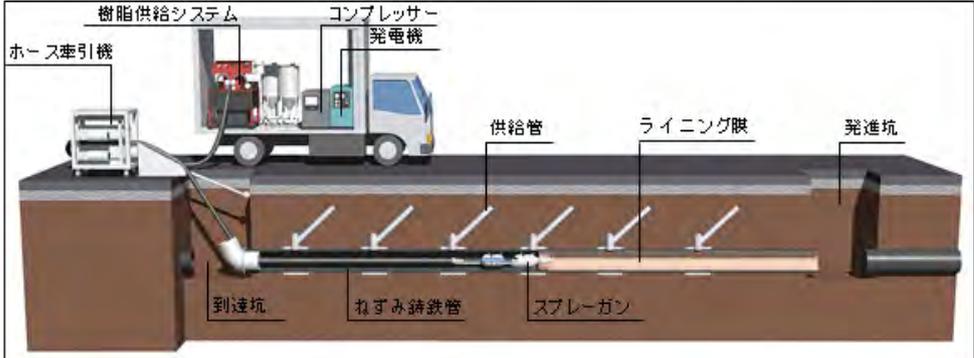
※ガス管の位置にキズをつけないよう注意してください。キズを気づけたらガス事業者にご連絡ください。

※ガス管付近で掘削などの火気作業を行う場合は、必ずガス事業者にご連絡ください。

段階		供給段階及び製造段階	
対策		○本支管対策	
具体的な実施項目		・優先順位付けに基づいた対策実施の推進 (要対策ねずみ鑄鉄管)(●)	
ロードマップ		～2015年度 対策実施(4大事業者) ～2020年度 対策実施(その他事業者)	
実施主体		事業者	
進捗状況	事業者	JGA	<p>○国が策定した本支管維持管理対策ガイドラインに基づき、ガス事業者が要対策ねずみ鑄鉄管対策を実施。実施内容例は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス事業者においてリスクマネジメント体制を構築することにより、ねずみ鑄鉄管対策のPDCAサイクルを実行し、対策有効性を検証しながら、対策是正及び改善を継続的に実行。 ・ガス事業者において対策優先順位付けは、故障の発生確率としては埋設年(造管方法)、口径、地盤安定度、等、危害の重大さとしては市街化度等を因子として実施し、各事業者において対策計画を策定。 ・日本ガス協会において対策進捗フォローを行うとともに、ねずみ鑄鉄管の取替えが困難な箇所を有している事業者に対して、新工法の紹介等の技術支援を継続的に実施。 <p>○一般ガス事業者の低圧本支管のうち、4大事業者の対策の優先順位の高い「要対策導管」については、平成26年度末の時点で、4社の残存量計は167kmとなっており、工事許可取得が難航し対策が困難な物件等が存在するものの、平成27年度の対策完了という目標に向けて引き続き実施することとしている。</p> <p>○その他の事業者については、ねずみ鑄鉄管を保有する事業者は50事業者で、平成26年度末時点での要対策導管の残存量計は99kmとなっており、可能な限り平成32年度の目標に対して平成27年度までの前倒し完了を目指して入替えが進められている。</p>
		JCGA	○簡易ガスについては、平成19年度末で約5kmの要対策ねずみ鑄鉄管が残存していたが、平成25年度末に全て対策は完了した。

段階		供給段階及び製造段階
対策		○本支管対策
具体的な実施項目		・対策実施に係る優先順位付け(維持管理ねずみ鑄鉄管)
ロードマップ		—
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	JGA
<p>○国が策定した本支管維持管理対策ガイドラインに基づき、ガス事業者が維持管理ねずみ鑄鉄管対策を実施。実施内容例は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント体制を構築することにより、ねずみ鑄鉄管対策のPDCAサイクルを実行し、対策の有効性を検証しながら、対策の是正及び改善を継続的に実行。 ・維持管理導管に対しては、リスク状況を監視しながら、万一の漏えいの際の緊急対応等を含む日常の維持管理を実施しつつ、必要に応じ、適切な対策を実施。 <p>○一般ガス事業者の低圧本支管で、ねずみ鑄鉄管のうち、維持管理導管については適切な維持管理を行いつつ、より細やかな優先順位付けに基づいた対策を進めることとしている。維持管理ねずみ鑄鉄管の残存量は、平成26年度末の時点で、大手2事業者については2,526kmである。</p>		

段階		供給段階及び製造段階
対策		○本支管対策
具体的な実施項目		・リスクマネジメント手法を活用した維持管理対策の推進(腐食劣化対策管)
ロードマップ		—
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	<p>○日本ガス協会において、国が策定した本支管維持管理対策ガイドライン(平成20年7月)に記載されたリスクマネジメント手法を用いた維持管理における各ガス事業者の対策事例を取りまとめ、ガス事業者に対する説明会を通じて、リスクマネジメント手法の活用の推進を図っている。ガス事業者は、日本ガス協会が示した対策事例を参考に、個社の状況に応じたPDCAサイクルを実施するシステムを構築し、リスクを監視しながら、より細かな優先順位付けに基づいた対応を行う等の維持管理を実施している。なお、腐食劣化対策管の平成26年度末時点での残存量計は19,726kmである。(対平成25年度末比1,146km減)</p>
	JCGA	<p>○リスクマネジメント手法を用いた経年管対策について事業者説明を実施し、事業者はその手法に基づき対策を計画的に進めている。(継続) なお、説明会は平成20年11月から平成21年7月にかけて、全国支部(10ヶ所)で実施した。</p>

段階		供給段階及び製造段階
対策		○本支管対策
具体的な実施項目		・技術開発成果を活用した対策の推進
ロードマップ		—
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	<p>JGA</p> <p>○日本ガス協会は、対策の進捗確認を行うとともに、軌道敷下や繁華街等の開削工事での施工困難箇所を有している事業者に対して、非開削工法等の新工法の紹介等の技術支援を継続的に実施している。</p> <p>これを受けて、ガス事業者は、ねずみ鋳鉄管等の更生修理工法等について、対象となる路線上で発生することが予想される形態の漏えいを予防できる工法を選択し適用する等の適切な運用を実施している。</p> <p>更生修理工法の例：GBA工法 概要：高強度・高延性な樹脂をミスト状に噴霧してガス管内面に塗布し樹脂膜を形成する工法であり、非開削工法の一つである。</p> 
		<p>JCGA</p> <p>○更正修理工法の活用について、一般大手ガス事業者（主に4大事業者）及び関係エンジニアリング会社等から、適用検討・施工に関する技術サポートを受け実施している。</p>

段階		供給段階及び製造段階																		
対策		○灯外内管対策																		
具体的な実施項目		・優先順位付けに基づいた対策実施の推進(保安上重要な建物)(●)																		
ロードマップ		～2015年度 対策実施(4大事業者)																		
実施主体		事業者(★)																		
進捗状況	事業者	<p>○ガス事業者は、国が策定した供内管腐食対策ガイドラインに基づき、「腐食漏えいによる事故の発生し易さ」と「事故発生時の影響度」との組み合わせを勘案して対策の優先順位を設定。 具体的には、保安上重要な建物を建物区分、建物下埋設配管の有無等により適宜細分化し優先順位を設定。</p> <p style="text-align: center;">▼ 優先順位設定の例</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">建物下埋設配管</th> </tr> <tr> <th>なし</th> <th>あり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 特定地下街等、特定地下室等、超高層建物、特定大規模建物</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">優先順位 I</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 高層建物、特定中規模建物、特定公共用建物、工業用建物、一般業務用建物、一般集合住宅のうち、学校・病院</td> <td style="text-align: center;">優先順位 III</td> <td style="text-align: center;">優先順位 II</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">優先順位 IV</td> <td style="text-align: center;">優先順位 III</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(3) 高層建物、特定中規模建物、特定公共用建物、工業用建物、一般業務用建物、一般集合住宅のうち、鉄筋コンクリート系建物(2)を除く</td> <td style="text-align: center;">優先順位 VI</td> <td style="text-align: center;">優先順位 V</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(4) 上記以外</td> </tr> </tbody> </table> <p>○4大事業者の平成26年度末における保安上重要な建物の未対策内管の残存量は34,638本となっており、需要家の協力を得ながら、対策を進めている。</p> <p>○4大事業者以外の202事業者についての平成26年度末における保安上重要な建物の未対策内管の残存量は37,719本となっており、需要家の協力を得ながら、対策を進めている。</p>		建物下埋設配管		なし	あり	(1) 特定地下街等、特定地下室等、超高層建物、特定大規模建物	優先順位 I		(2) 高層建物、特定中規模建物、特定公共用建物、工業用建物、一般業務用建物、一般集合住宅のうち、学校・病院	優先順位 III	優先順位 II	優先順位 IV	優先順位 III	(3) 高層建物、特定中規模建物、特定公共用建物、工業用建物、一般業務用建物、一般集合住宅のうち、鉄筋コンクリート系建物(2)を除く	優先順位 VI	優先順位 V	(4) 上記以外	
		建物下埋設配管																		
なし		あり																		
(1) 特定地下街等、特定地下室等、超高層建物、特定大規模建物	優先順位 I																			
(2) 高層建物、特定中規模建物、特定公共用建物、工業用建物、一般業務用建物、一般集合住宅のうち、学校・病院	優先順位 III	優先順位 II																		
	優先順位 IV	優先順位 III																		
(3) 高層建物、特定中規模建物、特定公共用建物、工業用建物、一般業務用建物、一般集合住宅のうち、鉄筋コンクリート系建物(2)を除く	優先順位 VI	優先順位 V																		
	(4) 上記以外																			
事業者	JCGA	<p>○保安上重要な建物の経年内管対策として、可能な限り平成27年度までの完了を目指すことと、この対策を実施するにあたっては国のガイドラインに基づくリスクマネジメント手法によりの確なりリスク評価に基づく優先順位付けを行うようガス事業者に要請している。この手法に関しては、協会発行の「保安教育の手引き」に記載し、各支部の講習会(平成25年度は10支部で16回実施)等で活用し、ガス事業者に対する周知を行っている。</p> <p>○経済産業省及び他省庁からの公的機関に対する未対策管の改善要請に基づき、ガス事業者に対し折衝業務を実施するよう周知を行っている。</p> <p>○ガス事業者向け「経年内管の入替促進のためのガイド」を作成(平成26年3月)し、経年管の入替折衝業務に活用するよう、保安講習会(平成26年度は10支部で16回実施)等を通じ配布し、周知・啓発を行っている。</p> <p style="text-align: center;">▼ 経年内管の入替促進のためのガイド</p> 																		

段階	供給段階及び製造段階																		
対策	○灯外内管対策																		
具体的な実施項目	・国の補助金制度等の活用による対策実施(保安上重要な建物)(●)																		
ロードマップ	～2015年度 対策実施(4大事業者)																		
実施主体	国(★)、事業者(★)																		
進捗状況	国	<p>○公共の安全を確保するため、腐食や地震による破損等を原因とするガス漏れの可能性が特に高い、需要家敷地内に埋設された腐食のおそれのある経年埋設内管の交換・修繕に必要な土木工事費等(需要家資産である経年埋設内管の取替に直接要する経費(配管の材料費、切断費、溶接工事費)を除く。)の一部を補助する、ガス導管劣化検査等支援事業を実施した。</p> <p>○加えて、平成25年度補正予算では、同様に上記経年埋設内管についての土木工事等を補助する、ガス導管経年劣化緊急対策事業(9.5億円)を実施した。</p> <p>○関係省庁(文部科学省・国土交通省・厚生労働省など)や関係団体への注意喚起の実施(マンション管理センター、日本賃貸住宅管理協会、全国賃貸不動産管理業協会、日本医師会、日本病院会、全日本病院会、日本精神科病院協会、日本医療法人協会)(平成26年2月～)</p>																	
	事業者	<p>○日本ガス協会では、経済産業省との連携し、以下を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス導管経年劣化検査等補助金公募説明会時に経年管対策の加速化に向けた経済産業省と全国ガス事業者による意見交換会を開催(平成26年4月:全国8会場) ・経済産業省の協力依頼(平成26年4月14日付け)を受け、都市ガス事業者(207社)に対し、経年埋設内管対策の補助金がH27年度をもって終了となる予定であることの周知、および、補助金を活用した経年埋設内管削減の強力な推進を依頼。(平成26年5月2日付け)。 ・経済産業省による関係省庁及び関係団体に協力要請した際の文書及びチラシを正会員ホームページに掲載することで折衝ツールとしての活用を周知。(平成26年5月2日付け) ・経済産業省と協働し関係団体への注意喚起の実施(マンション管理センター、マンション管理業協会、日本賃貸住宅管理協会、全国賃貸不動産管理業協会、日本医師会、日本病院会、全日本病院会、日本精神科病院協会、日本医療法人協会)(平成27年2月～3月) ・経済産業省広報誌METI Journalの特集記事(経年埋設内管)に対する協力(平成26年8月) <p>○日本ガス協会では、ガス事業者における対策の推進、ならびに補助金制度活用の促進を図るため、以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ガス協会技術部内に「経年埋設内管対策推進センター」設立(平成26年4月) ・各種の会議体を通じガス事業者へ改善取り組みの推進及び補助金活用の訴求 ・補助金活用実績等に基づく表彰制度の運用 ・対策完了に向けたガス事業者への実態ヒアリングの実施 ・東京ビルディング協会技術委員会にて改善促進要請(平成26年4月) ・東京ビルディング協会「ビルキョウサロン」における講演発表(平成26年7月) ・NHKニュースへの取材協力(平成26年9月) ・東京ビルディング協会誌「びるじんぐ」への寄稿(平成26年10月) <p>○ガス事業者は、「ガス導管経年劣化検査等支援補助金」「ガス導管経年劣化緊急対策事業補助金」を活用し、保安上重要な建物における経年内管の改善を実施。補助金の活用実績は、以下の通り。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成25年度補正</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数(件)</td> <td>3,232</td> <td>2,673</td> <td>2,061</td> <td>428</td> <td>1,365</td> </tr> <tr> <td>金額(億円)</td> <td>3.4</td> <td>2.9</td> <td>2.5</td> <td>2.4</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成26年度補助については、平成26年9月をもって予算額に達したため申請締切</p> <p>○国土強靱化基本計画の策定をうけた経済産業省による関係省庁及び関係団体への協力要請文章をホームページに掲載することで折衝ツールとしての活用を周知した。(平成27年2月～3月)</p>		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成25年度補正	平成26年度	件数(件)	3,232	2,673	2,061	428	1,365	金額(億円)	3.4	2.9	2.5	2.4
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成25年度補正	平成26年度														
件数(件)	3,232	2,673	2,061	428	1,365														
金額(億円)	3.4	2.9	2.5	2.4	1.5														

		<p>○ガス導管経年劣化緊急対策補助事業(平成25年度補助予算関係) ガス事業者は、「ガス導管経年劣化緊急対策補助金」を活用し、保安上重要な建物における経年内管の改善を実施。活用実績は以下のとおり。 ・1件(92千円)(補助率は工事費全体の1/2)</p> <p>○ガス導管劣化検査等支援事業(平成22年度～) ガス事業者は、「ガス導管劣化検査等支援補助金」を活用し、保安上重要な建物における経年内管の改善を実施。平成22年度から26年度の活用実績は以下のとおり。 ・9件(4,054千円補助)(補助率は工事費全体の1/4)</p> <p>○経年埋設内管対策費補助事業(平成18年度～平成21年度) ガス事業者は、「経年埋設内管対策費補助金」を活用し、保安上重要な建物における経年内管の改善を実施。平成18年度から平成21年度までの活用実績は以下のとおり。 ・37件(28,469千円補助)(補助率は工事費全体の1/2)</p> <p>日本コミュニティーガス協会では、「コミュニティーガスニュース」を通じて上記の事業に関する周知を会員事業者に向けて実施した。</p>
--	--	---

段階 対策		供給段階及び製造段階
具体的な実施項目		○灯外内管対策 ・業務機会を捉えた改善の必要性周知(保安上重要な建物以外の建物)
ロードマップ		—
実施主体		事業者(★)
進捗 状況	国	<p>○ガスの安全利用に関する普及啓蒙を行う経済産業省の専用HP「ガスの安全見直し隊」において、注意喚起を行っている。(以下、「例」を示す。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の古くなったガス管は、早めにお取り替えください。 ・土の中の白ガス管は古くなって腐食が進むとガスが漏れることがあります。 ・ガスを安心してご利用いただくために、お客様のご協力をお願いいたします。 
	JGA 事業者	<p>○日本ガス協会及びガス事業者から需要家に対し、業務機会やホームページへの掲載等を通じて古くなったガス管の取替えの促進に関する広報を実施。</p> <p>▼ 業務機会を通じた広報の例 (快適ガスライフの基礎知識より)</p>  <p>▼ ホームページを通じた広報の例</p> 
	JCGA	<p>○日本コミュニティーガス協会及びガス事業者から需要家に対し、業務機会やホームページへの掲載等を通じて古くなったガス管の取替えの促進に関する広報を実施。</p> 

段階		供給段階及び製造段階	
対策		○灯外内管対策	
具体的な実施項目		・技術開発成果を活用した対策の推進	
ロードマップ		—	
実施主体		事業者	
進捗 状況	事業者	JGA	<p><平成26年度の取組></p> <p>○事業者に対し、JGA主催の技術普及セミナーを通じて更生修理工法(ガスパイプ内に樹脂等を用いて膜を形成する工法)の紹介。</p> <p>○第18回 ガス導管更生修理工法評価委員会にてプラスライニング工法(管内面にウレタン樹脂のライニング膜を形成する更生修理工法)の特性評価試験の評価基準年を11年から40年とする追加評価を承認。</p>
		JCGA	○ガス事業者は更正修理工法の活用について、一般大手ガス事業者(主に4大事業者)及び関係エンジニアリング会社等から、適用検討・施工に関する技術サポートを受け実施。(継続)

段階		供給段階及び製造段階													
対策		○製造設備対応													
具体的な実施項目		・高経年LNG設備対応(●)													
ロードマップ		～2014年度 検討													
実施主体		事業者													
進捗状況	事業者	JGA	<p>○全国のガス事業者に対しアンケート調査を平成24年10月に実施し、製造設備の実態把握を行った。</p> <p>1. 分析結果 (1) 経年劣化事例 ①球形ガスホルダー : 疲労割れ23件、外面腐食9件、応力腐食割れ6件 ②LNG気化器 : 熱疲労(エアフィン式のみ)9件 ③LNG貯槽 : 外面腐食4件 ④LPG貯槽 : 疲労割れ8件、外面腐食2件 ⑤配管 : 外面腐食16件、応力腐食割れ2件</p> <p>・上記経年劣化事例のほとんどは、日本ガス協会が発行している各設備別の指針の中で定められている点検・検査に係る維持管理要領に従い、定期的な検査を行うことで管理できる事象であることを確認した。 ・一方、球形ガスホルダーの応力腐食割れ、配管の外面腐食及び応力腐食割れの事例は指針に記載不足のところがあり、記載の充実が望まれることがわかった。</p> <p>2. 対応策 (1) 球形ガスホルダーの応力腐食割れの事象については、ガス事業者の運用に応じた評価ができるよう、指針を改訂した。(平成26年4月改訂指針発行) (2) 配管の劣化事例については、LNG受入基地設備指針の維持管理に関する記載内容の充実を図り、管理強化を促した。(平成27年3月改訂指針発行) (3) 上記(1)、(2)に加えて改めて今回の調査結果と指針の参照ポイントを、指針改訂の説明会と併せて周知し、注意喚起を行っていく。 (1回目:平成25年12月実施済、2回目:平成26年12月実施済)</p> <p>3. スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="523 1122 1267 1308"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指針への反映</td> <td>(1)球形GH改訂作業 →</td> <td>改訂指針発行 ↓</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2)LNG受入基地設備指針改定作業 →</td> <td>改訂指針発行 ↓</td> </tr> <tr> <td>説明会での周知</td> <td>(3)1回目 ↔</td> <td>(3)2回目 ↔</td> </tr> </tbody> </table>		平成25年度	平成26年度	指針への反映	(1)球形GH改訂作業 →	改訂指針発行 ↓		(2)LNG受入基地設備指針改定作業 →	改訂指針発行 ↓	説明会での周知	(3)1回目 ↔	(3)2回目 ↔
				平成25年度	平成26年度										
指針への反映	(1)球形GH改訂作業 →	改訂指針発行 ↓													
	(2)LNG受入基地設備指針改定作業 →	改訂指針発行 ↓													
説明会での周知	(3)1回目 ↔	(3)2回目 ↔													

		段階	供給段階及び製造段階																				
		対策	○作業ミスの低減に重点を置いた教育・訓練の徹底																				
		具体的な実施項目	・自社工事に係る教育の徹底																				
		ロードマップ	—																				
		実施主体	事業者																				
進捗状況	事業者	JGA	<p>○定期的に事故事例研究に関する冊子を発刊し、ガス事業者による事例研究を通じた事故防止に関する教育等を実施するよう促している。</p> <p>○協会作成の事故事例研究や危険予知トレーニング(KYT)等により、ガス事業者は、作業手順の遵守、安全作業の遂行等について継続的に保安に関する教育を実施している。</p> <p>○業界資格の新規取得時、更新時における事故事例に関する教育も実施している。</p> <p><内管工事資格制度> 平成19年4月から運用開始。新規取得および3年ごとの資格更新時の講習を通じて、事故事例研究やKYT等を行っている。</p> <p style="text-align: center;">内管工事資格の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格保有者数</td> <td>34,570</td> <td>33,909</td> <td>33,368</td> <td>32,867</td> </tr> <tr> <td>資格認定修了者数</td> <td>1,824</td> <td>1,938</td> <td>2,091</td> <td>2,166</td> </tr> <tr> <td>更新講習修了者数</td> <td>9,721</td> <td>9,260</td> <td>8,926</td> <td>9,120</td> </tr> </tbody> </table> 		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	資格保有者数	34,570	33,909	33,368	32,867	資格認定修了者数	1,824	1,938	2,091	2,166	更新講習修了者数	9,721	9,260	8,926	9,120
			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																	
資格保有者数	34,570	33,909	33,368	32,867																			
資格認定修了者数	1,824	1,938	2,091	2,166																			
更新講習修了者数	9,721	9,260	8,926	9,120																			
JCGA	<p>○簡易ガス事業者の導管工事における酸欠事故防止対策を以下のとおり実施している。</p> <p>協会作成の「酸欠事故防止対策の手引き」(平成26年5月改訂)を活用し、施工時の安全遵守の徹底等について継続実施するよう求めている。</p> <p>事業者の保安教育及び協会の保安講習会(各支部で2回/年開催)等で機会ある毎に注意喚起を実施。特に、単独工事の際に死亡事故が発生していることから、協会から単独工事の禁止徹底の遵守を要請している。</p> <p>なお、平成26年度には10支部にて計16回酸欠事故防止対策を保安講習会でとりあげ安全周知を実施した。</p> <p style="text-align: right;">▼ 酸欠事故防止対策の手引き</p>  <p>○ガス事業者には、協会作成の「保安教育の手引き」や事故事例集等により、作業ミスの低減に向けた教育を実施するよう要請している。</p>																						

段階		供給段階及び製造段階	
対策		○作業ミスの低減に重点を置いた教育・訓練の徹底	
具体的な実施項目		・自社工事に係るベストプラクティスの共有	
ロードマップ		—	
実施主体		事業者	
進捗 状況	事業者	JGA	<p>○自社工事における事故防止に関して、各ガス事業者のベストプラクティスの内容を日本ガス協会が収集し、事例集冊子として取りまとめた。各ガス事業者が事例集冊子を活用し、事故防止に関する活動を推進できるよう説明会を実施し、情報の共有を図った。</p> <p>○事例集冊子は、近年の事故状況を分析し、本管・供給管の自社工事による「供給支障」が多く発生していることを懸念し、供給支障を防止するべく各ガス事業者のベストプラクティス事例集となっている。</p> <p>○事例集の構成は、近年の事故分析を行い工事計画段階・工事着工段階、工事施工段階に分けて様々な好取り組み事例をまとめた。</p> <p>○良い取り組み事例を参考に、各ガス事業者において、これまでの個社の取り組みとあわせて対策の強化検討を行っている。</p>
		JCGA	<p>○自社工事事故などを含む「簡易ガス事業の事故事例集」の事故再発防止策事例を協会が作成し、保安講習会等で周知している。(事故については、発生日、場所(県別)、事故状況、原因、被害状況を記載)(継続)</p> <p style="text-align: center;">▼ 簡易ガス事業の事故事例集</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>簡易ガス事業の事故事例集</p> <p>(平成17年～平成21年)</p> <p>社団法人 日本簡易ガス協会</p> </div>

段階		供給段階及び製造段階における保安対策									
対策		○作業ミスの低減に重点を置いた教育・訓練									
具体的な実施項目		・適確な配送管理の実施に向けた関係者間の相互確認教育(●)									
ロードマップ		～2012年度 検討									
実施主体		事業者									
進捗状況	事業者	JCGA	<p>○事故撲滅を目指し毎年6月～8月末の期間で「保安向上キャンペーン」を展開している。平成23年度から、特定製造所での事故防止をキャンペーンを目的として、そのために配送管理者と担当者間の連携の強化を図ることや配送業務等についての保安教育を実施することを実施項目としている。当キャンペーン期間中にキャンペーンの主旨に沿った保安教育を多くの事業者が実施し、その結果として緩やかではあるが、作業ミスの低減が見られる。</p> <p>○保安向上キャンペーンを周知するためのポスターや保安教育資料として活用できるチラシ、配送作業時の作業ミス無くすための注意点やチェック項目をまとめた容器交換時のマニュアルカード、配送作業後の点検票等も作成しガス事業者に配布しており、これらのポスター、チラシ、マニュアルカード、点検表に関係者間の相互確認を行うよう記載している。(保安向上キャンペーン資料は別紙のとおり)</p> <p>○日本コミュニティーガス協会各支部で開催している保安講習会で、過去の事故事例を紹介し、その再発防止策の一つとして、配送業務を委託せず、関係者間で相互に確認するよう教育を行っている。 ※資料は別紙のとおり。</p> <p><参考> 製造支障(ガス切れ)事故について(平成23年～26年)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成23年</th> <th>平成24年</th> <th>平成25年</th> <th>平成26年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5件</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ガス事業法による事故報告</p>	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	5件	3件	4件	4件
平成23年	平成24年	平成25年	平成26年								
5件	3件	4件	4件								

平成25年度 保安向上キャンペーン 平成25年6月1日～8月31日

全員の絆で無くそうヒューマンエラー!

ヒューマンエラーによる供給法違誤(特にガス切れ)が毎年発生しています。的確な配送指示を行うとともに、配達完了の検核を徹底し、「ガス切れ事故」を予防しましょう。

配達手がカレンダーに記入し、配達船手と配達完了の検核をしよう!

配達日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
6月																																	
7月																																	
8月																																	

JAeコミュニティガス 一般社団法人 日本コミュニティガス協会 <http://www.jcga-page.or.jp>

平成25年度 保安向上キャンペーン 平成25年6月1日～8月31日

注意 特定製造所でこのようなヒューマンエラー事故が起きています

1 冬期の予備割の食い込みによるガス切れ
 (1) 冬期の寒気によって食い込み発生
 (2) 配達員が指示通りに行われなかったことによるガス切れ

2 配達員が指示されたことを忘れる
 配達員が自身の判断で配達日を変更する

3 配達員が指示されたことを忘れる
 配達員が自身の判断で配達日を変更する

4 配達員が指示されたことを忘れる
 配達員が自身の判断で配達日を変更する

5 ガス切れ
 冬期は寒気によって食い込み発生

6 ガス切れ
 配達員が指示されたことを忘れる

JAeコミュニティガス 一般社団法人 日本コミュニティガス協会 <http://www.jcga-page.or.jp>

平成26年度保安向上キャンペーン

全員の“絆”で無くそうヒューマンエラー!

特定製造所でのヒューマンエラー事故(ガス切れ・バルブ開放忘れ・感温遮断装置の誤作動等)を防止するため、容器交換時の点検を徹底に行いましょう。

特定製造所容器交換時の点検表

供給地点群名称: _____
 特定製造所名称: _____

JAeコミュニティガス

容器交換作業マニュアル

- 1 特定製造所の確認作業
- 2 自動切替装置の確認
- 3 自動切替装置の確認
- 4 自動切替装置の確認

特定製造所でのヒューマンエラー事故を撲滅しよう!

- 確認作業
 - 特定製造所(周辺)の異常有無の確認
 - 異音・異臭・異振動の有無の確認
 - 感温遮断装置の動作確認
 - 圧力確認
 - 確認項目
 - 確認項目
 - 確認項目
- 点検作業
 - 自動切替装置の確認
 - 自動切替装置の確認
 - 自動切替装置の確認
- 点検作業
 - 自動切替装置の確認
 - 自動切替装置の確認
 - 自動切替装置の確認
- 点検作業
 - 自動切替装置の確認
 - 自動切替装置の確認
 - 自動切替装置の確認

JAeコミュニティガス 一般社団法人 日本コミュニティガス協会

平成26年度 保安向上キャンペーン 平成26年6月1日～8月31日

迷惑千万 起こすな! ガス切れ!

ストーリー ① 早朝編

えっ、突然コンロの火が消えた?

ガス会社に問い合わせる...
 コンロが故障している...
 忘れてた...
 忘れてた...
 忘れてた...

コメント
 朝、少々のガスは主燃焼によって燃焼と同じです。自動切替装置によって、大切なエネルギーを消費してはなりません。忘れてた... 二人が子供の安全を確保するために、忘れてた... 忘れてた... 忘れてた...

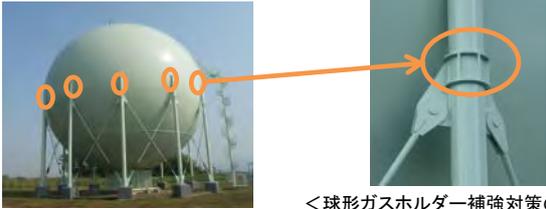
JAeコミュニティガス 一般社団法人 日本コミュニティガス協会 <http://www.jcga-page.or.jp>

段階	供給段階及び製造段階									
対策	○作業ミスの低減に重点を置いた教育・訓練の徹底									
具体的な実施項目	・自社工事に係る教育の徹底									
ロードマップ	—									
実施主体	事業者									
事業者	JCGA	<p>○ガス工作物の点検・検査の推進と教育・訓練を実施し、事故防止に万全を期すことを目的とした「保安点検検査推進運動」を毎年度展開している。この運動では、コミュニティーガス協会がポスター等による運動の周知と教材（保安教育の手引き等）の整備、講習会の開催による指導を行い、ガス事業者は巡視点検・検査の励行や関係者への教育・訓練を実施している。（継続）</p> <p><特定製造所におけるバルブ開放忘れ事故>（平成23年～26年）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成23年</th> <th>平成24年</th> <th>平成25年</th> <th>平成26年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3件</td> <td>0件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○平成26年度は支部開催の保安講習会（10支部16回開催）にて、ヒューマンエラー事故防止もテーマに含め、作業ミスの低減に重点を置いた教育を実施した。</p> <p>▼ 保安点検検査推進運動のポスター</p>	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	3件	0件	1件	2件
平成23年	平成24年	平成25年	平成26年							
3件	0件	1件	2件							

段階		供給段階及び製造段階	
対策		○作業ミスの低減に重点を置いた教育・訓練	
具体的な実施項目		・ガス工作物の適確な操作手順に関する教育・訓練(●)	
ロードマップ		～2012年度 検討	
実施主体		事業者	
進捗状況	事業者	JCGA	<p>○協会が展開している「保安向上キャンペーン」では、配送管理者と担当者に対して保安教育を行い、ガス工作物の操作やそれに伴う事故の防止について教育を行うこととしている。(継続)</p> <p>○協会では、ガス工作物の操作手順と注意事項を掲載したチラシや容器交換時のマニュアルカードを保安向上キャンペーン資料として事業者者に配布し、関係者に対して注意喚起を行うとともに、保安教育資料としても活用している。(継続)</p> <p>○「保安点検検査推進運動」でも、ガス工作物の点検・検査時にガス工作物の操作の確認を行うことにより、誤操作による事故の未然防止を図っている。(継続) (チラシ、マニュアルカードはNo.30別添のとおり)</p> <p>○平成26年度は支部開催の保安講習会(10支部16回開催)にて、ヒューマンエラー事故防止もテーマに含め、作業ミスの低減に重点を置いた教育を実施した。</p> <p>▼ ヒューマンエラーに起因する供給支障事故の再発防止に向けて (保安講習会資料)</p> <div data-bbox="667 869 981 1086" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ヒューマンエラーに起因する 供給支障事故の再発防止に向けて</p>  <p>平成26年6月(改訂) 一般社団法人 日本コミュニティガス協会</p> </div>

段階		災害対策															
対策		○設備対策															
具体的な実施項目		・耐震化率の一層の向上															
ロードマップ		—															
実施主体		事業者															
進捗 状況	事業者	<p>○「Gas Vision2030」を掲げ、その中で低圧導管の耐震性向上を目指しており、別途設定された安全高度化目標(2025年90%)に向けて耐震化率の一層の向上を取組み中である。</p> <p>○低圧本支管の耐震化、ポリエチレン化への取組み状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 (年末実績)</th> <th>耐震管延長 (km)</th> <th>PE管延長 (km)</th> <th>耐震化率 (詳細値) (全国)(%)</th> <th>PE管比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013</td> <td>184,871</td> <td>91,261</td> <td>85.0</td> <td>41.9</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>188,166</td> <td>94,324</td> <td>85.9</td> <td>43.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※日本ガス協会アンケートより</p>	年 (年末実績)	耐震管延長 (km)	PE管延長 (km)	耐震化率 (詳細値) (全国)(%)	PE管比率 (%)	2013	184,871	91,261	85.0	41.9	2014	188,166	94,324	85.9	43.0
		年 (年末実績)	耐震管延長 (km)	PE管延長 (km)	耐震化率 (詳細値) (全国)(%)	PE管比率 (%)											
2013	184,871	91,261	85.0	41.9													
2014	188,166	94,324	85.9	43.0													
	JCGA	<p>○導管の耐震化については、新設の低圧導管を耐震性を有するものとし、既設導管については社会的優先度の高い施設の経年管対策に際し耐震性も考慮し計画的な入替えを行う。(継続)</p> <p>○平成23年度末の簡易ガスの導管耐震化率</p> <p>(1)低圧本支管(総延長 約16,319km)</p> <p>①耐震化率 82%(耐震管延長 約13,393km)</p> <p>②ポリエチレン管比率65%(ポリエチレン管延長 約10,469km)</p> <p>(2)低圧供給管(総本数 約1,170千本)</p> <p>①耐震化率 80%(耐震管本数 約931千本)</p> <p>②ポリエチレン管比率 65%(ポリエチレン管本数 約752千本)</p> <p>※出典:平成24年度ガス地震対策実施状況の調査結果</p>															

段階		災害対策
対策		○設備対策
具体的な実施項目		・「長柱座屈防止のための耐震設計指針(仮称)」の策定(●)
ロードマップ		～2012年度 策定
実施主体		事業者
進捗 状況	事業者	JGA
		<p>○平成23年8月に「長柱座屈防止のための耐震設計ガイドライン」※を策定。</p> <p>○JGAに設置した外部有識者の参加によるガス工作物等技術基準調査委員会において、平成25年1月に審議を行い、指針の新規制定が承認された。その後1か月のパブリックコメントを経て、指針を発行した。また、全国のガス事業者向けに指針に関する説明会を実施し、周知した。</p> <p>※ 長柱座屈とは、長い柱や棒に縦方向に荷重を加えると、ある荷重で急に横方向に大きく曲がる現象ををいう。新潟県中越沖地震では、小口径で長い直線状配管に多大な被害が発生した。本ガイドラインでは、埋設される100A以下の供給上重要な溶接接合された高・中圧ガス導管に対し、長柱座屈を防止するための耐震設計手法をまとめている。</p> <p>具体的には、埋設する地盤の固有周期、管種、呼び径及び直管端部の曲管の曲げ角度などに応じて、直線長の上限值を設定している。</p>
		 <div data-bbox="1082 719 1428 1200" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">長柱座屈防止のための耐震設計ガイドライン</p> <p style="text-align: center;">平成 23 年 8 月</p> <p style="text-align: center;">一般社団法人 日本ガス協会</p> </div>

段階		災害対策												
対策		○設備対策												
具体的な実施項目		・支持部材損傷防止措置未実施の球形ガスホルダーの補強対策の推進(●)												
ロードマップ		～2014年度 実施												
実施主体		事業者												
進捗状況	事業者 JGA	<p>○アンケート調査を実施し、タイロッドブレース式の球形ガスホルダーについての実態把握を行った。</p> <table border="0"> <tr> <td>①平成23年8月 対策済み(補強あり/強度十分)</td> <td>:409基</td> </tr> <tr> <td>要対策又は評価未実施・確認中</td> <td>:79基</td> </tr> <tr> <td>②平成24年10月 要対策</td> <td>:41基</td> </tr> <tr> <td>③平成25年8月 要対策</td> <td>:27基</td> </tr> <tr> <td>④平成26年10月 平成27年3月末での要対策残存見込み</td> <td>:7基</td> </tr> <tr> <td>⑤平成27年10月 平成28年3月末での要対策残存見込み</td> <td>:5基(*1)</td> </tr> </table> <p>(*1)79基→5基への減少理由 実際に補強対策を実施したものに加え、スモールミーティング等を通じて、個別調査を進め対策の必要性を検討の結果、問題なしと判断できたものを含む。 ※出展:日本ガス協会アンケート</p> <p>○代表的な容量の既設ホルダーに対する補強例を評価検討した。</p> <p>(外面からの補強例) 支柱外側から補強リングを取り付け。</p>  <p><球形ガスホルダー補強対策の例></p> <p>○補強対策が必要となる球形ガスホルダーを保有する事業者を対象に、ガス安全高度化計画の浸透、補強例の紹介等を目的としたスモールミーティングを、平成24年8月～9月にかけて合計4回開催し、対象の全事業者への説明を実施した。</p> <p>○平成26年4月に球形ガスホルダー指針を改訂した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①支柱とタイロッドブレース接続部の補強規定に補強例を追加する等充実を図った。 ②地震後の緊急点検チェックリストを付属書に追加した。 ③全国8会場で説明会を開催し、球形ガスホルダー指針の改訂内容を周知した。 <p>○残存する5基のガスホルダーについては、開放検査にあわせた補強等を予定しており、対策の前倒しを引き続き依頼。</p>	①平成23年8月 対策済み(補強あり/強度十分)	:409基	要対策又は評価未実施・確認中	:79基	②平成24年10月 要対策	:41基	③平成25年8月 要対策	:27基	④平成26年10月 平成27年3月末での要対策残存見込み	:7基	⑤平成27年10月 平成28年3月末での要対策残存見込み	:5基(*1)
①平成23年8月 対策済み(補強あり/強度十分)	:409基													
要対策又は評価未実施・確認中	:79基													
②平成24年10月 要対策	:41基													
③平成25年8月 要対策	:27基													
④平成26年10月 平成27年3月末での要対策残存見込み	:7基													
⑤平成27年10月 平成28年3月末での要対策残存見込み	:5基(*1)													

段階		災害対策
対策		○設備対策
具体的な実施項目		・重要電気設備等の津波・浸水対策の推進(●)
ロードマップ		～2014年度 実施
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	<p>○津波対策に関する要領を新規策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な津波・浸水対策を例示（電気設備建屋の水密化、電気設備の嵩上げ、可搬非常用発電機の保有等） ・事業者は想定浸水深を踏まえ対策を実施 <p>○事業者への対策の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方説明会を開催し、津波対策に関する要領を周知（平成25年8～9月）。 ・重大な機能被害に対して事業者間で相互応援できる仕組みとして、津波対策連絡会を発足し、平成24年9月より計4回開催し、全国の78事業所が参画し、事業者の浸水想定、対策の具体例を情報共有化した。 <p>○全国のガス事業者に対し、津波・浸水対策に関するアンケート調査の実施</p> <p>第1回：平成25年8月、第2回：平成26年11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所における想定津波高さ及び想定津波高さに応じた措置の実施状況を把握した。 ・津波浸水により影響を受ける可能性がある製造所は全171事業所のうち31事業所（地元自治体が浸水想定検討中：別途2事業所）であり、これらの事業所において、重要電気設備等の津波・浸水対策を推進していることを確認した。 <p>○「LNG受入基地設備指針」の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波・浸水対策に関する記載を追加。 <p>○臨時製造による代替策の整備・運用開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時にLNG気化器を業界内で融通し、臨時製造によるガス供給を行う仕組みの検討を進め、手続き・運用に関する要領を作成、平成26年12月より運用を開始した。 <p>○今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・自治体による津波想定公表動向を引き続き注視するとともに、JGAの発行する指針類（LNG小規模基地設備指針等）に、受入基地指針と同様、津波・浸水対策に関する記載の追加を行い、津波・浸水対策の推進を図っていく。
	JCGA	<p>○平成24年8月にアンケートを実施し、保安上重要な電気設備を設置し、津波により浸水の恐れがある特定製造所が39箇所あるとわかった。</p> <p>○そのうち特定製造所の津波対策について</p> <p>対策を検討中の特定製造所 11箇所 対策済の特定製造所 11箇所 対策の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気設備を設置している室のドアの水密性を高める <p>○要対策の特定製造所については、継続して対策の実施が完了するようフォローしていく予定。</p> <p>※平成24年度ガス地震対策実施状況の調査結果</p>

段階		災害対策	
対策		○緊急対策	
具体的な実施項目		・防災データベースの改善及びICT等の技術の進歩に合わせた情報システム等の継続的な見直し(●)	
ロードマップ		～2012年度 改善実施 以降、継続的見直し	
実施主体		国、事業者	
進捗状況	国	<p>○平成20年度から、ガス防災支援システム基盤整備事業(G-React)の運用を実施。本事業は、大規模な地震発生時に、ガス事業者の供給停止状況(各ブロックの供給の有無等)や被害状況(被害戸数等)を迅速に把握し、周辺ガス事業者等による支援の迅速化を図るための緊急保安システムである。平成25年度は以下の事業を実施。(平成25年度 予算額 45,180千円の内数)</p> <p>・防災支援情報の整備 ガス事業者等から、供給ブロック情報や主要ガス設備情報等の基礎データを収集しシステムに反映させることで、システムを最新の情報に更新。 また、大規模地震発生時には、業界団体が収集する供給停止情報をシステムに反映させ、システム上で供給停止情報を共有することで、関係機関やガス事業者による迅速かつ的確な初動対応を支援する。</p>	
	事業者	JGA	<p>○全国のガス事業者に対して、ガス防災支援システムの基礎データを更新するために必要な情報を提出するよう、協会のホームページに依頼文を掲載(平成26年8月)。</p> <p>○G-REACTを利用した大規模な地震発生時を想定した被害状況報告訓練を支部毎に実施(平成26年8月～9月)。</p>
		JCGA	○ガス防災支援システムの基礎データ更新について、必要な情報を協会支部から収集(平成26年11月)。

		段階	災害対策													
		対策	○緊急対策													
		具体的な実施項目	・防災訓練の実施													
		ロードマップ	—													
		実施主体	国、事業者													
進捗 状況	事業者	国	<p>○平成26年9月1日「防災の日」において、東京都23区を震源地とした地震を想定した災害発生時の地震災害応急対策の実施体制の確保等を図るため、総合防災訓練を実施した。(訓練の想定:東京都23区を震源地とした地震 地震規模:M7.3(最大震度 7))</p> <p>○平成26年6月のJGAの防災訓練において、担当部署が連絡網に加わるとともに関係部署への情報伝達も併せて実施した。</p>													
		JGA	<p>○JGAにおいて、地震等災害が発生した場合のJGAとガス事業者の情報連絡方法の確認や初動対応の確認等、災害対応能力の向上を図るため訓練(1回以上/年)を継続的に実施している。</p> <p>○JGAの作成した保安規程(参考例)等をもとに各ガス事業者の保安規程に定める防災訓練(1回以上/年)の継続的な実施を行っている。 (防災訓練で実施する事例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震予知情報及び警戒宣言の伝達に関すること ・非常態勢の確立に関すること ・工事の中断等に関すること ・ガス工作物の巡視、点検等に関すること ・防災に関する設備、資材等の確保、点検等に関すること ・需要家等に対する要請に関すること ・警戒解除宣言に係る措置に関すること ・その他地震災害の発生の防止又は軽減を図る措置に関すること <p>○他に、災害時の緊急対策のスキル向上を目的に、事業者間での情報交換を実施している例もある。</p>													
		JCGA	<p>○保安規程に定める防災訓練の継続的な実施を行っている。</p> <p>・支部主催の防災訓練(平成23～26年度)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催回数</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成23年度</td> <td>15回</td> <td>約2,000名</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td>18回</td> <td>約1,800名</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>16回</td> <td>約1,600名</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>16回</td> <td>約1,800名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※出典:保安点検検査推進運動実施結果(アンケート)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">★ 防災訓練の様子</p>		開催回数	参加者	平成23年度	15回	約2,000名	平成24年度	18回	約1,800名	平成25年度	16回	約1,600名	平成26年度
	開催回数	参加者														
平成23年度	15回	約2,000名														
平成24年度	18回	約1,800名														
平成25年度	16回	約1,600名														
平成26年度	16回	約1,800名														

段階		災害対策
対策		○緊急対策
具体的な実施項目		・供給停止判断基準の見直し(●)
ロードマップ		～2012年度 実施
実施主体		国、事業者
進捗状況	国	○ガス導管等の被害が軽微となることが予見できる場合について、JGAが検討して見直した追加事項を反映し改訂した保安規程について、立入検査において適切な運用がなされているか確認する。
	事業者 JGA	<p>○JGAにて、ガス導管の耐震化率に焦点をあて、供給停止判断基準に追加された特例措置に関する詳細な適用条件について検討を実施した。</p> <p>○この検討結果を受けて追加の特例措置の適用条件をまとめ、平成24年度内に運用基準を定め、保安規程(参考例)及び保安規程(参考例)の解説に反映。 (追加する特例措置の適用条件)</p> <p>(1)SI値(地震動の強度指標)の上限 SI値:80カイン (東日本大震災及び阪神・淡路大震災等の過去の地震も含め、SI値と被害率の相関を見ると、80カインを超えると被害率が急速に増大していくことが認められるため、上限値を80カインとしたもの。)</p> <p>(2)設備区分毎の適用条件(全ての条件をandで適用する) 本支管:耐震化率 90%以上 供給管:耐震化率 90%以上 灯外内管:耐震化率 90%以上 建物:耐震化率 90%以上 (過去の地震でSI値60カイン以上を記録し、供給継続ブロックの被害率データがある阪神・淡路大震災において、2次災害を発生させることなく供給継続を実施することができた被害率を閾値とし、それ以下となる各要素の耐震化率を条件としたもの。) その他地盤条件等も考慮し、特例措置を適用するブロックを選定する。 建物に付随する灯内内管・消費機器については、マイコンメーター等でガスが遮断されることで安全が確保されるため適用条件の対象外とした。なお、JGAおよびガス事業者は需要家に対し、業務機会やホームページの掲載等を通じて、地震のあと、ガスを再び使用する際の留意点について広報を実施している。</p> <p style="text-align: center;">＜ホームページを通じた広報の例(JGA)＞</p> <div data-bbox="767 1272 1145 1720" data-label="Image"> </div> <p>○追加された特例措置を適用するガス事業者においては、自社の保安規程を改訂する。</p>

段階		災害対策
対策		○緊急対策
具体的な実施項目		・液状化により著しい地盤変位が生じる可能性の高い地区の特定及びリスト化(●)
ロードマップ		～2012年度 実施
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	<p>○リスト化の方法について、平成24年7月に策定し、JGAに設置された外部有識者の参加によるガス工物等技術基準調査委員会第2小委員会で審議を行い、平成24年8月に承認された。</p> <p>○全国のガス事業者に対し、災害対策WG報告書を受けて、平成24年7月に説明会を実施し、当該地区の特定及びリスト化に関する取組みについて周知を行った。</p> <div data-bbox="954 481 1268 705" data-label="Image"> </div> <p>○アンケート(平成25年7月)によりガス事業者の実施状況を調査し、液状化により著しい地盤変位が生じる可能性の高い地区に対して、対応が図られていることを確認。</p> <p>(特定方法の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体により公開されている液状化ハザードマップ(PL値[*]>15のエリア)等により特定する。 <p>※PL値(液状化指数):液状化の可能性を判断する指標であり、15を超えると液状化の可能性が高くなる。</p>
		<p>○平成24年8月から9月にかけて地震対策実施状況調査を実施し、結果は以下のとおりである。</p> <p>○各自治体が公表しているハザードマップを確認し、液状化の危険性がある簡易ガス団地がリストアップされている。また、東日本大震災以降ハザードマップを新たに公表・更新する予定の自治体も多数あると思われるため、まずは危険性のある箇所への把握に努める。その結果、簡易ガス団地の所在地が液状化の危険性があると判明した場合は、今後対策を検討していく。</p> <p>①液状化の想定範囲を記載したハザードマップを公表している自治体(市区町村)内に所在する簡易ガス団地 1,603地点群</p> <p>②上記のうち、液状化が想定される範囲内に所在する簡易ガス団地※ 589地点群</p> <p>出典:平成24年度ガス地震対策実施状況の調査結果</p> <p>※液状化が想定される範囲とは、ハザードマップに記載されている液状化の危険度ランクが、「可能性がある」「可能性が高い」「液状化しやすい」と同等の表現もしくはこれ以上の危険性がある表現となっている範囲をさす。</p>

段階		災害対策
対策		○緊急対策
具体的な実施項目		・自治体等により特定された盛土崩壊等の可能性のある地区のリスト化(●)
ロードマップ		～2014年度 実施
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	<p>○リスト化の方法について、JGAにて平成24年7月に策定し、JGAに設置された外部有識者の参加によるガス工作物等技術基準調査委員会第2小委員会で審議を行い、平成24年8月に承認された。</p> <p>○全国のガス事業者に対し、災害対策WG報告書を受けて、平成24年7月に説明会を実施し、当該地区の特定及びリスト化に関する取組みについて周知を行った。</p> <div data-bbox="995 517 1315 741" style="text-align: center;"> </div> <p>○アンケート(平成27年7月)によりガス事業者の実施状況を調査し、自治体等により特定された盛土崩壊等の可能性のある地区に対して、対応が図られていることを確認。</p> <p>(特定方法の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害防止法及び大規模盛土造成地の変動予測調査ガイドライン[※]等により特定する <p>※国土交通省において平成19年に策定されたガイドラインであり、現在行政機関で調査が実施されている。</p>
	JCGA	<p>○各自治体が公表しているハザードマップや土砂災害防止法及び大規模盛土造成地の変動予測調査ガイドライン等を確認し、盛土崩壊の危険性がある簡易ガス団地をリストアップする。東日本大震災以降ハザードマップを新たに公表・更新する予定の自治体も多数あると思われるため、まずは危険性のある箇所の把握に努める。その結果、簡易ガス団地の所在地が盛土崩壊の危険性があると判明した場合は、今後対策を検討する。</p>

段階		災害対策
対策		○緊急対策
具体的な実施項目		・作業員の安全確保に係る避難場所の確保、災害対応マニュアル類の見直し、避難訓練を含む保安教育の再徹底
ロードマップ		—
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	<p>○津波対策に関する要領を新規策定 作業員の安全確保策について整理(人命保護のための避難、二次災害防止を考慮した緊急措置、各事業所の実態に応じた避難場所、避難ルートの確保、避難場所、避難ルートをマニュアル類に反映し、定期的な避難訓練の実施)</p> <p>○事業者への対策の周知 ・地方説明会を開催し、津波対策に関する要領を周知(平成25年8~9月)。 ・津波対策に関して、事業者間で相互応援できる仕組みとして、津波対策連絡会を発足し、計4回開催し、全国の78事業所が参画した。事業者による作業員の安全確保策について対策の具体例を情報共有化した。</p> <p>○全国のガス事業者に対し、アンケート調査の実施 第1回:平成25年8月、第2回:平成26年11月 緊急措置、避難に関するマニュアル類の改訂、避難訓練を含む保安教育が推進されていることを確認。</p> <p>○「LNG受入基地設備指針」の改訂 ・津波発生時の緊急対策の記載の追加。</p> <p>○今後の予定 ・国・自治体による津波想定公表動向を引き続き注視するとともに、JGAの発行する指針類(LNG小規模基地設備指針等)に、受入基地指針と同様、作業員安全確保に係る記載の追加を行い、安全対策の一層の充実を図っていく。</p>
	JCGA	<p>○簡易ガス事業地震防災対策マニュアルの改訂を実施した。 標記マニュアルに作業員の安全確保等に関する対策を盛り込み、平成24年11月に改訂を済ませ、それ以降、保安講習会等を通して事業者にも周知・徹底を図っている。 (継続)</p>

▼ 地震防災対策マニュアル



段階 対策		災害対策
		○緊急対策
具体的な実施項目		・非裏波溶接鋼管の特定及び関係する遮断装置のリスト化(●)
ロードマップ		～2012年度 実施
実施主体		事業者
進捗 状況	事業者	JGA
<p>○全国のガス事業者に対し、災害対策WG報告書を受けて、平成24年7月に説明会を実施し、当該地区のリスト化に関する取組みについて周知を行った。</p> <div data-bbox="906 456 1294 725" data-label="Image"> </div> <p>○アンケート(平成25年7月)によりガス事業者の実施状況を調査し、対象の非裏波溶接鋼管※に対して、対応が図られていることを確認。</p> <p>※非裏波溶接とは、昭和37年以前に用いられていた管内面の溶着金属の溶け込みが十分でない、現行の裏波溶接法とは異なる溶接法。</p>		

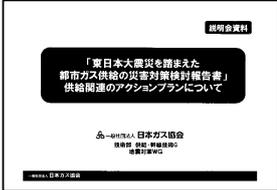
段階 対策		災害対策 ○緊急対策
具体的な実施項目		・津波漂流物による損傷可能性のある橋梁添架管の特定及び関係する遮断装置のリスト化(●)
ロードマップ		～2012年度 実施
実施主体		事業者
進捗 状況	事業者	JGA
<p>○全国のガス事業者に対し、災害対策WG報告書を受けて、平成24年7月に説明会を実施し、当該地区のリスト化に関する取組みについて周知を行った。</p> <div data-bbox="948 479 1406 801" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>説明会資料</p> <p>「東日本大震災を踏まえた 都市ガス供給の災害対策検討報告書」 供給関連のアクションプランについて</p> <p>一般社団法人 日本ガス協会 技術部 供給・幹線技術G 地震対策WG</p> <p>一般社団法人 日本ガス協会</p> </div> <p>○アンケート(平成25年7月)によりガス事業者の実施状況を調査し、想定津波高さが明らかとなったガス事業者において、津波漂流物による損傷可能性のある橋梁添架管への対応が図られていることを確認。</p> <p>○高圧ガス導管を有する事業者(22社)は、平成24年2月に「高圧ガス導管等津波対策連絡会」を発足し、添架管等に被害が発生した場合の導管等材料の融通等について検討を実施した。</p>		

段階		災害対策
対策		○緊急対策
具体的な実施項目		・特定製造所における感震自動ガス遮断装置の全数設置に向けた普及促進(●)
ロードマップ		～2014年度 実施
実施主体		事業者
進捗状況	事業者 JCGA	<p>○設置促進について普及活動を実施しており、平成27年12月末現在の設置状況調査結果は以下のとおり。</p> <p>【特定製造所の感震自動ガス遮断装置の設置状況】</p> <p>(1) 普及率 94.5%(設置済8,525箇所、未設置492箇所) [参考]平成26年の普及率93% 平成25年の普及率92% 平成24年の普及率91%</p> <p>(2) 未設置の特定製造所について</p> <p>①今後の設置予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定している 339箇所 ・予定はない 153箇所 <p>②未設置(予定なし)の主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃止予定 ・調定数が少なく、今後も増加が見込めない ・費用負担の問題 ・一般ガスへの移行予定あり <p>○未設置の特定製造所については設置促進を促すこととする。</p>

▼ 感震自動ガス遮断装置の設置例



段階		災害対策
対策		○緊急対策
具体的な実施項目		・通信手段の充実
ロードマップ		—
実施主体		国、事業者
進捗 状況	国	○総務省の、大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会において、平成23年12月に「大規模災害等緊急事態における通信確保のあり方について」が取りまとめられ、災害時の輻輳対応や迅速な応急復旧対応を図る観点から、国、関係事業者及び自治体間の情報共有・伝達体制等の在り方に関し、非常通信協議会の見直し（協議会構成の拡充、情報共有・伝達体制の整備、非常通信ルートの見直し等）を行うことが決定した。
	事業者	○通信統制訓練の実施 大手8事業者* ¹ にて、震災復旧時の通信統制を想定した訓練を実施した（平成27年9月）。この訓練は、非常時における円滑な通信統制業務の実施のため、年1回、実施することとしている。通信統制は、非常時の移動無線の効果的・効率的な運用を図ることで、移動無線の混信・輻輳等を防止し、復旧活動を円滑にすることを目的としている。 * 1 東京ガス、大阪ガス、東邦ガス、西部ガス、北海道ガス、広島ガス、静岡ガス、東部ガスの8者 ○無線のデジタル化対応のための環境整備 旧スプリアス規格のアナログ移動無線機の買い替え検討時に、ガス事業者が業務用デジタル移動無線の中でも、比較的安価なものを選択できるよう環境整備に取り組んでいる。業務用デジタル移動無線の中でも比較的安価な方式である4値FSK変調方式の業務用デジタル移動無線について、平成27年10月に業界統一仕様（150MHz帯/400MHz帯デジタル移動無線システム ガス事業共通仕様書）を策定した。 ○保安通信に係るアンケート調査の実施 ガス事業者において、保安通信のアンケート調査を実施（平成27年9月1日に正会員通知）。具体的には、各事業者の通信手段の多重化状況を把握するとともに、非常通信計画の策定、地方非常通信協議会や都道府県消防防災関連窓口との非常時を想定した通信訓練に関する実施状況について、調査を実施。
	JCGA	○災害時の通信手段について各事業者に調査を行ったところ、以下の結果であった。 1. 災害時の通信手段の多重化について ・多重化をしている（複数の通信機器を設置している） 1,177事業者（多重化率85%） 2. 通信機器（固定電話・携帯電話を除く）の種類と設置率について ・無線通信 27% ・衛星携帯電話 3% ・その他（パソコン等による電子メール） 3. 災害時優先電話の設置率について ・災害時優先電話（固定電話）を設置している 56% ・災害時優先電話（携帯電話）を設置している 24% ※出典：平成24年度ガス地震対策実施状況の調査結果 ○災害時の通信手段についての調査結果を受け、多重化を行っていない事業者については、地震防災対策マニュアル等を通して多重化の必要性について周知を実施。

段階		災害対策
対策		○復旧対策
具体的な実施項目		・余震等を考慮した復旧作業員の安全に配慮した復旧活動のあり方の検討(●)
ロードマップ		～2012年度 実施
実施主体		事業者
進捗 状況	事業者	<p>○全国のガス事業者に対し、災害対策WG報告書を受けて、平成24年7月に説明会を実施し、東日本大震災における事例(余震時の対応、健康管理等)について周知を行った。</p>  <p>○余震時の対応方法の重要性等について、JGAの地震防災対策関連図書(地震防災対策ガイドライン、地震時ガス導管復旧作業の手引等)に反映し、全国のガス事業者へ周知済み。</p>
		<p>▼ 地震防災対策マニュアル</p>  <p>○安全確保等に関する対策を盛り込むため、平成24年11月に簡易ガス事業地震防災対策マニュアルを改訂。以降事業者に周知・啓発を行っている。(継続)</p>

段階	災害対策
対策	○復旧対策
具体的な実施項目	・復旧時における仮設配管及び導管地中残置に関する検討(●)
ロードマップ	～2014年度 実施
実施主体	国
進捗状況	<p>○経緯と事例 ガス導管の早期復旧のため、公道において仮設配管する場合や新設導管を埋設する際に既設導管を地中に残置する場合、一般的には、道路管理者と個別に協議する必要があり、この協議に時間を要する。今回道路管理者と事前の覚書を締結していたガス事業者においては、スムーズに仮設配管及び地中残置に着手できた事例もあった。</p> <p>(事前に覚書を締結していた事例:千葉県内) 道路管理者である自治体(千葉県、浦安市)と事前に仮設配管及び地中残置等に関する覚書を締結していたことに伴い、速やかに工事着手が可能となり、仮設配管:約3km、残置:約10kmを実施し、早期復旧に寄与した。 (覚書の主な記載内容) ・事後申請、復旧工事等の施工方法など</p> <p>○要望内容 早期復旧に時間を要しないためにも、災害時は仮設配管及び地中残置等を道路管理者に事前に了承してもらうことで協議時間を少なくできる。そのためには、事前の覚書締結が必要となり、スムーズに道路管理者と締結するため、管轄する国土交通省から各道路管理者へ要請が必要である。</p> <p>○メリット 今回の事例では、既設管の撤去を行いながら敷設する速度を1とすると、仮設残置及び残置した結果、当該箇所は約5～10ms/日で施工することができた。(5m/日の施工に対し、25～50m/日)</p> <p>○対応結果 ・早期復旧の観点から、国、自治体などの道路管理者とガス事業者との間で、公道における仮設配管や既設導管の地中残置に関する覚書の締結が促進されることは有効。 ・今回のスムーズに工事に着手できた事例について、平成25年2月及び12月に国土交通省道路局路政課に紹介し、さらなる協力依頼を平成26年7月、12月及び平成27年2月に実施した。 ・これまでの国土交通省道路局路政課との協議を踏まえ、各ガス事業者において、供給エリアの被害想定を踏まえた具体的な復旧対応を検討した上で、必要に応じて、道路管理者に仮設配管や既設配管の地中残置などの対応を事前に相談することとした。(平成28年3月)</p>

	段階	災害対策
	対策	○復旧対策
	具体的な実施項目	・移動式ガス発生設備の大容量化について検討(●)
	ロードマップ	～2014年度 実施
	実施主体	国
進捗 状況	国	<p>○経緯</p> <p>・東日本大震災で被災した病院において、臨時供給を行った際、移動式ガス発生設備として時間当たりの送出量が多いCNG(圧縮天然ガス)タイプ:100m³/hが望ましかったところ。</p> <p>・しかしながら、制度上、容量が300m³未満と制限されているため、3時間程度ごとに取替えのための供給停止を要することから不適切であると判断し、時間当たりの送出量が小さいLNG式:50m³/h(容量1,000kg弱)を設置し、病院において使用するガスの量を減らすことを依頼し、臨時供給を行った。</p> <p>○検討状況</p> <p>・移動式ガス発生設備は、平成7年2月27日のガス事業法施行規則の改正により位置付けられたものであり、圧縮天然ガス※については以下の貯蔵能力(容量)の上限を定めている。</p> <p>※圧縮天然ガス:300m³・・・高圧ガス保安法における特定高圧ガスの消費となる貯蔵能力に準じて規定(高圧ガス保安法第24条の2第1項、同法施行令第7条第2項)</p> <p>・次の論点について整理し、検討を進める。</p> <p>一高圧ガス保安法上、300m³以上の貯蔵能力の場合に求められる物理的規制(保安物件との離隔距離等)や手続き(事前届出等)等の保安上の措置を適用した場合、現実的か。</p> <p>一仮に上記について緩和が必要な場合、同等の保安確保が可能で、かつ現実的な代替措置はあるか。</p> <p>○今後の予定</p> <p>・平成27年4月のガス安全小委員会において、貯蔵能力を10,000m³に引き上げた場合に一定の保安措置を講ずることにより安全性が担保できるとの結論を得たことから、平成28年2月に関係省令・告示、解釈例を改正・施行。</p>

段階		災害対策
対策		○復旧対策
具体的な実施項目		・法定熱量測定の特例措置の検討(●)
ロードマップ		～2014年度 実施
実施主体		国
進捗 状況	国	<p>○経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災における津波により製造所に甚大な被害を受けた一般ガス事業者では、製造設備の復旧に長期間を要することが見込まれたため、初の試みとして、製造所にLNGローリー、気化器等を用いた臨時製造設備を設置することによる代替供給が行われた。 ・しかしながら、ガス事業法第21条及び同法施行規則第21条第1項の規定に基づく供給ガスの熱量及び燃焼性の測定義務を履行するため、毎日一回、製造所等の出口において、告示に定める方法により熱量及び燃焼性を測定する必要がある。このための測定機器の調達に時間を要した場合、迅速に供給を開始できない可能性もあった。 <p>○検討結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス事業法施行規則改正済み。(平成25年10月28日付け経済産業省令第54号) －災害その他の非常時にガスの熱量及び燃焼性を測定することが困難な場合において、熱量及び燃焼性が測定された液化天然ガスを用いてその成分に変更を加えることなく一時的に供給するときは、第一項の規定にかかわらず、熱量及び燃焼性を測定することを要しないこととした。

段階		災害対策	
対策		○復旧対策	
具体的な実施項目		・需要家データ、マッピングデータ等のバックアップの確保	
ロードマップ		—	
実施主体		事業者	
進捗状況	事業者	JGA	<p>○全国のガス事業者に対し、災害対策WG報告書を受けての説明会を平成24年7月に実施し、東日本大震災における事例(本社設備が被害を受けた事業者において、需要家データを間一髪で避難させたものの、万一紛失していた場合は、復旧に多大な時間を要した)について周知した。</p>  <p>○アンケート(平成25年7月)によりガス事業者の実施状況を調査し、津波により本社設備等が被災する可能性のあるガス事業者において、バックアップデータ確保に向け取組みが推進されていることを確認。</p>
		JCGA	<p>○平成24年8月から9月にかけて地震対策実施状況調査を実施した結果は以下のとおりである。</p> <p>○保安関連データのバックアップについて 保安関連データのバックアップについて、各事業者へ調査を行ったところ、以下の結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一の事業所でバックアップをとっている 783事業者 ・他の事業所等でバックアップをとっている 401事業者 ・特にバックアップはとっていない 227事業者 <p>※出典:平成24年度ガス地震対策実施状況の調査結果</p> <p>○地震防災対策マニュアルへの反映 日本コミュニティーガス協会が発行している「地震防災対策マニュアル」において、需要家情報や導管図面等の重要なデータについては、被災時においてもデータの消失等が起こらないように、日頃からデータのバックアップや、データの複数個所での保管管理を考慮するよう新たに記載することとし、当該地震防災対策マニュアルの改訂を平成24年11月に実施し、それ以降、保安講習会等を通じ事業者はこのマニュアルに沿ってデータ等のバックアップを行うよう要請している。(継続)</p> <p>▼ 地震防災対策マニュアル</p> 

段階		災害対策
対策		○復旧対策
具体的な実施項目		・事前届出を行っていない車両に対する緊急通行車両確認標章交付の迅速化(●)
ロードマップ		～2014年度 実施
実施主体		国
進捗状況	国	<p>○日本ガス協会(JGA)は、非常事態の際には、復旧応援隊に先駆けて先遣隊を派遣することとしているが、東日本大震災においては、JGAでは特定の車両を保持していないため、事前届出制度による事前交付を受けることができず、派遣に時間を要した。</p> <p>○このため、</p> <ul style="list-style-type: none"> -発災後、直ちに、経済産業省は、JGAと調整の上、JGAに対する標章公布の迅速な交付手続きが行われるよう、警察庁に対して協力要請の第一報を行う。 -JGAは、速やかに緊急車両の手配を行い、所轄の警察署に対して、緊急通行車両の確認標章の交付申請を行う。 <p>等、JGAの先遣隊が円滑に活動できる仕組みを講ずることとした。(平成26年11月28日に警察庁交通局交通規制課と打ち合わせ済み)</p>

段階		災害対策
対策		○復旧対策
具体的な実施項目		・支援物資物流システム改善状況のフォロー
ロードマップ		—
実施主体		国
進捗 状況	国	<p>○国土交通省が事務局を務める、『支援物資物流システムの基本的な考え方』に関するアドバイザリー会議において、平成23年12月に『支援物資物流システムの基本的な考え方』に関するアドバイザリー会議報告書がとりまとめられ、物流事業者の能力を最大限活用、災害時協力協定の内容の見直し、協定締結の推進等を行うことが決定。今後は、大規模災害が懸念されている地域から、ブロックごとに国、地方自治体、物流事業者等の関係者による協議会を設置し、今後の支援物資物流のあり方等について、具体的にとりまとめを行うことが決定した。</p>

段階		災害対策
対策		○その他災害対策
具体的な実施項目		・新たな災害知見の収集と設計指針等への反映の検討
ロードマップ		—
実施主体		国、事業者
進捗 状況	国	<p>○地震等災害時に損傷を受けたガス導管の早期復旧に効果が期待できる「異種管継手」について、平成23年度ガス工作物設置基準調査委託事業において、海外の使用状況や技術基準等の調査を行った結果、耐震性に関する評価が実施されていないことが分かった。</p> <p>○現在、「異種管継手」を日本で適用するには、ガス事業法等において耐震に関する技術基準が具体的に示されていないことから、国が実証試験等を行い、得られた技術的根拠に基づき技術基準の見直しを目的として、平成25年度、平成26年度のガス工作物設置基準調査委託事業において、調査・検討を行った。その結果、異種管を接合した場合の耐震性は現行の技術基準を満たすと評価された。</p>
	事業者	
	JGA	<p>○No.34「長柱座屈防止のための耐震設計指針(仮称)」で、指針を発行済み。</p> <p>○新たな知見が収集できた場合は、速やかに各種指針・要領等への反映を検討する。</p>
	JCGA	<p>○液状化が想定される範囲内に所在が予想される団地などをリスト化するため、平成24年11月に地震防災対策マニュアルを改訂し、以降事業者に対する啓発を行っている。</p> <p>○新たな知見が収集できた場合は、速やかに各種マニュアル等への反映を検討する。</p>

段階	その他																																																																
対策	○保安人材の育成																																																																
具体的な実施項目	・保安を担う国家資格制度の維持・改善																																																																
ロードマップ	—																																																																
実施主体	国																																																																
進捗状況	国	<p>○国家資格として、ガス事業者のガス工作物の工事、維持、運用に関する保安の監督を行うガス主任技術者及び特定ガス消費機器の設置工事を行う際に監督を行う特定ガス消費機器設置工事監督者の資格を設けている。年度別の有資格者数及び詳細については以下のとおり。</p> <p>【国家資格】</p> <p>1. ガス主任技術者試験合格者数 ガス主任技術者試験の有資格者は平成26年度末で62,880人となっている。甲種、乙種、丙種のいずれの合格者ともここ数年着実に増加している。</p> <p style="text-align: center;">▼ ガス主任技術者試験合格者数の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>甲種</td> <td>394</td> <td>330</td> <td>330</td> <td>369</td> <td>379</td> </tr> <tr> <td>乙種</td> <td>433</td> <td>313</td> <td>264</td> <td>287</td> <td>337</td> </tr> <tr> <td>丙種</td> <td>1,026</td> <td>1,037</td> <td>667</td> <td>779</td> <td>933</td> </tr> <tr> <td>有資格者数</td> <td>56,855</td> <td>58,535</td> <td>59,796</td> <td>61,231</td> <td>62,880</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 特監法講習受講者数(再講習:3年毎) 特定ガス消費機器設置工事監督者の有資格者は平成26年度末で31,342人である。近年の有資格者数は減少傾向にあり、講習受講者数も同様の傾向にあるが、これはガス消費機器の減少傾向を反映したものと考えられる。</p> <p>なお、これまで特定ガス消費機器設置工事監督者の講習の実施機関は独立行政法人製品評価基盤技術機構(NITE)を指定していたが、平成24年5月の特監法施行規則の改正により、平成25年度からの講習については一般財団法人日本ガス機器検査協会が実施している。</p> <p style="text-align: center;">▼ 特監法講習受講者数の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格講習</td> <td>1,145</td> <td>1,136</td> <td>1,082</td> <td>1,011</td> <td>1,160</td> </tr> <tr> <td>認定講習</td> <td>314</td> <td>256</td> <td>251</td> <td>297</td> <td>333</td> </tr> <tr> <td>再講習</td> <td>9,540</td> <td>9,371</td> <td>8,748</td> <td>9,300</td> <td>9,141</td> </tr> <tr> <td>有資格者数</td> <td>35,896</td> <td>34,780</td> <td>31,248</td> <td>33,210</td> <td>31,342</td> </tr> </tbody> </table>					平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	甲種	394	330	330	369	379	乙種	433	313	264	287	337	丙種	1,026	1,037	667	779	933	有資格者数	56,855	58,535	59,796	61,231	62,880		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	資格講習	1,145	1,136	1,082	1,011	1,160	認定講習	314	256	251	297	333	再講習	9,540	9,371	8,748	9,300	9,141	有資格者数	35,896	34,780	31,248	33,210	31,342
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																																																												
甲種	394	330	330	369	379																																																												
乙種	433	313	264	287	337																																																												
丙種	1,026	1,037	667	779	933																																																												
有資格者数	56,855	58,535	59,796	61,231	62,880																																																												
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度																																																												
資格講習	1,145	1,136	1,082	1,011	1,160																																																												
認定講習	314	256	251	297	333																																																												
再講習	9,540	9,371	8,748	9,300	9,141																																																												
有資格者数	35,896	34,780	31,248	33,210	31,342																																																												

段階		その他
対策		○保安人材の育成
具体的な実施項目		・国家資格を基盤とした人材育成の維持・改善
ロードマップ		—
実施主体		事業者
進捗状況	事業者	JGA <p>○日本ガス協会では、各ガス事業者が主体的に「保安に関わる人材育成」を計画・実施できるよう、業界としての「保安人材育成」の実施枠組みを推進。 平成24年6月にワーキング検討組織を設置し、平成24年度内に具体的な実施施策項目を取りまとめ実施済。平成26年度に以下の支援項目を実施。</p> <p>①新たな教材の提供 緊急保安業務に関する映像教材(DVD)を作成し、各事業者に配布(平成26年11月)。 各事業者における保安に関する教育機会にて活用し、より効果的な教育を実施している。</p> <p>②保安人材育成担当者会議の実施 平成26年11～12月に、保安人材育成実務担当者を募って「保安人材育成担当者会議」を開催し、業界としての保安人材育成の活性化を図った。 各事業者は、他社の活動事例を、自社での今後の施策検討の参考にしている。</p>
		JCGA <p>○保安を守る熱意、知識、技能を持つ人材の育成が重要との観点から、各ガス事業者において保安教育を確実に実施し、その教育は座学に偏らず現場での指導も含めたものとするを提唱している。そのため、教育のツールとなる「保安教育の手引き」(平成24年改訂)及び「保安・技術ハンドブック」(平成26年6月発行)も活用し、各ガス事業者の社内保安教育の充実を図っている。(保安教育の手引き等はNo.18を参照)(継続)</p>

段階	その他	
対策	○需要家に対する安全教育・啓発	
具体的な実施項目	・ガスの取扱いや換気の必要性等に関する基本情報の継続発信	
ロードマップ	—	
実施主体	国、事業者	
国	<p>○平成26年度都市ガス安全情報広報事業(需要家等に対する広報)において、以下の広告により需要家に対するガスの安全使用に関する普及・啓発を実施。</p> <p>①交通広告により一般需要家向けの広報を実施(平成26年11月～12月)。 ・中吊りポスター(経年内管交換促進、旧型ガス機器交換促進/ 大阪市営地下鉄、名古屋市営地下鉄、福岡市営地下鉄) ・トレインチャンネル(経年内管交換促進、旧型ガス機器交換促進/ JR東日本)</p> <p>②朝日新聞に、一般需要家向け広告(経年内管交換促進)を掲載(平成26年12月2日朝刊)</p> <p>③昨年度作成したパンフレット(以下の広告)をリニューアル(版下作成、経済産業省HP上にてダウンロード可)。 ・一般需要家向け(事故防止の6つのポイント、経年内管の取替え) ・マンション・学校・病院などの建物所有者向け(経年内管の取替え) ・業務用需要家向け(換気の認識向上、ガス機器・給排気設備のメンテナンス) ・他工事事業者向け(敷地内他工事事故防止) ・塗装業者向け(塗装工事中の事故防止)</p> <p>④DVDを作成。構成内容は、「古くなったガス管は交換しましょう! 古くなったガス機器は交換しましょう!」とし、安全教育・啓発を行う(5,000枚作成 全国都市ガス事業者、簡易ガス事業者、関係省庁等へ配布)。</p>	
JGA	<p>○ガスの取扱いや換気の必要性等に関する基本情報の継続発信 日本ガス協会は、「ガスと暮らしの安心」運動をはじめ、ガス展、定期保安点検等の各種業務機会を通じて、ガスの取扱いや換気の必要性等に関する基本情報の継続発信のため以下のようなパンフレット等を製作し、ガス事業者へ提供している。 ガス事業者は、これらを活用して、業務接点の機会を通じてガスの取扱いや換気の必要性等に関する基本情報の継続発信を図っている。</p> <p>◇「ガスと暮らしの安心」運動を通じた周知・啓発(ポスター掲示) 平成26年度 ガス協会標準版:7,900枚、事業者作成版:1,294枚 平成25年度 ガス協会標準版:9,897枚、事業者作成版:617枚 平成24年度 ガス協会標準版:8,480枚、事業者作成版:620枚 平成23年度 ガス協会標準版:9,164枚、事業者作成版:320枚</p> <div data-bbox="1043 1308 1393 1792" style="text-align: center;"> </div> <p>「ガスと暮らしの安心」運動 ポスター</p>	

進捗
状況

事業者

◇ガス協会作成/パンフレット「快適ガスライフの基礎知識」
 (都市ガス事業者購入ベース)
 平成26年度 1,965,400部
 平成25年度 1,990,200部
 平成24年度 1,907,600部
 平成23年度 2,003,050部



「快適ガスライフの基礎知識」パンフレット

○消費者事故ゼロを目指し、より充実した消費者保安の向上を目的とした、消費者にガス機器の正しい使い方の周知や換気の注意等を実施している「ガスと暮らしの安心」運動並びに国の安全広報事業をはじめとしたお客さまの接点機会を活用した周知啓発(継続)

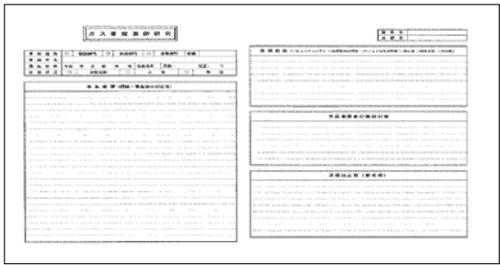
▼「ガスと暮らしの安心」運動 ポスター



JCGA

▼コミュニティガス協会 パンフレット



	段階	その他
	対策	○事故情報の活用・公開
	具体的な実施項目	・事故分析の高度化に向けた改善
	ロードマップ	—
	実施主体	国、事業者
進捗状況	国	<p>○毎年、「ガス安全小委員会」に、全体動向や製造段階、供給段階、消費段階の各段階、またCO中毒事故について取りまとめ、事故の報告を行っている。</p> <p>○委託事業において、消費段階事故について事故分析を行い、まとめている。昨今の事故に関しては、委託事業者からの提案を受け、事故原因をさらに掘下げ、発生頻度等の高い典型事例の類型化を図っている。(例:ゴム管の場合 接続不良の原因をさらに、①異物付着、②外力、③消費者の不安全行動、④接続不完全、⑤不適合接続具使用などに分けて集計。)</p> <p>○JGAで行っている事故分析の検討会(事故事例研究会)にも積極的に参加し、意見交換を行い、自らまとめ報告しているガス事故分析に活用している。</p>
	事業者	<p>○「事故報告の状況」の発行(四半期ごと) 類似事故の再発防止の観点から、事故報告の状況に基づき、全体分析、及び各段階(「製造段階」、「供給段階」、「消費段階」)ごとの分析・検討を行い、ガス事業者へ四半期毎に定期的に情報発信している。</p> <p>○「事故事例研究情報」の発行(年ごと) 1年間に報告したガス事故の分析・検討の総括を、経済産業省、ガス事業者、関係業界団体で構成する事故事例研究会にて実施し、経済産業省、ガス事業者、関係業界団体へ情報発信している。</p> <p>○重大事故にかかわる通達の展開 経済産業省からの下記通達をガス事業者へ展開し、情報周知を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・「陶芸用窯を使用する際の一酸化炭素中毒事故防止に関する注意喚起について(事務連絡)」 ・「建設工事等におけるガス管損傷事故の防止について(協力依頼)」(26商ガ安第22号) ・「住宅塗装工事等におけるガス機器の給気部又は排気部の閉そくによる一酸化炭素中毒事故の防止について(協力依頼)」(26商ガ安第23号) ・「ガス漏えい事故の未然防止について」(26商ガ安第24号) ・「アルコーブに設置されたガス給湯器の経年劣化による一酸化炭素中毒事故防止に関する注意喚起について(事務連絡)」 </p>
	JCGA	<p>○日本コミュニティーガス協会の技術委員会において、直近の事故について事故事例研究(事故の概要、原因、事業者の対応、再発防止策)を継続実施。</p> <p>▼ 事故事例研究用紙</p> 

	段階	その他
	対策	○事故情報の活用・公開
	具体的な実施項目	・情報公開・提供の仕組みに関する絶えざる改善
	ロードマップ	—
	実施主体	国、事業者
進捗 状況	国	<p>○消費段階の事故については、一般需要家、業務用需要家を問わず事故概要、事故が発生した機器分類、メーカー名及び型式等の情報を一覧にして経済産業省のホームページに掲載している。 (http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/citygas/detail/gas_accident.html)</p> <p>○死亡事故、重傷事故、一酸化炭素中毒事故、火災事故については事故を覚知してから速やかに経済産業省のホームページにおいて、個別に事故概要、注意喚起の報道発表を行っている。</p> <p>○消費段階の事故のうち一般需要家で発生した事故について、重大事故については覚知してから速やかに、その他の事故については1週間を超えない範囲で消費者庁に通知しており、消費者庁で重大事故と判断した案件については週1回報道発表を行っている。 (例: 2口ガス栓の例: http://www.caa.go.jp/safety/pdf/121012kouhyou_1.pdf)</p>
	JGA	<p>○全事業者向けの情報展開 類似事故の再発防止の観点で、事故報告の状況を四半期毎、年単位で取りまとめ、ガス事業者へ情報提供している。ガス事業者は保安教育・人材育成等で情報を活用している。</p> <p>○地方部会ごとの情報提供 また、上記とは別に、日本ガス協会の全国7箇所の部会を通じて、四半期毎とは別に、タイムリーな情報提供も行っている。(2ヶ月に1回の頻度)</p> <p>○保安運動説明会における情報発信 業界一斉に行う保安運動(「ガスと暮らしの安心」運動)に先立った説明会において、全国のガス事業者の実務担当者へ最近の事故の状況として情報発信を行っている。</p>
	事業者	<p>○事故事例研究の結果から、代表的あるいは特徴的な事例について「コミュニティーガスニュース」(協会報)を通じて年2回程度事業者へ情報提供し、事業者内での保安教育に活用するよう啓発を継続実施。</p> <p>○通年の事故件数、事故概要等を上期、下期(通年)の2回、事故事例紹介とは別に上記同様、「コミュニティーガスニュース」を通じて事業者へ情報提供を継続実施。</p> <p>▼ コミュニティーガスニュース ガス事故事例研究紹介</p> 

段階	その他	
対策	○水素インフラを想定した技術開発	
具体的な実施項目	・水素インフラ実証事業及び関連技術調査の実施(●)	
ロードマップ	～2015年度 実証(国プロ)	
	～2013年度 調査(国プロ)	
	～2017年度 基準等への反映	
実施主体	国、事業者	
進捗状況	国	<p>○水素ネットワーク構築導管保安技術調査事業(平成23～27年度) (予算額:平成23年度 105,923千円、24年度 210,442千円、25年度 109,957千円、26年度 107,303千円) 水素を供給する際に必要となる水素パイプラインの保安の確保に必要な技術を整備するため、平成26年度は以下の技術調査を実施。</p> <p>《事業実施内容》</p> <p>①総合調査 ・水素パイプライン供給等に関する事例調査を実施した。 ・水素パイプライン供給に係る技術面及び法令面の課題等の抽出と、技術基準の整備に向けた事前検討を実施。</p> <p>②配管における水素置換挙動調査 ・集合住宅でのガス開通作業時を想定し、内管にて不活性ガスを介した、空気から水素への置換挙動を調査。</p> <p>③配管材料の水素適用性調査 ・内管継手の水素に関する気密性を確認し、内管継手のシール部材の長期水素暴露による影響評価手法を検討することにより、水素への適用性を調査。</p> <p>④水素拡散挙動調査 ・集合住宅、建物内における内管からの水素の漏えいを想定し、密閉・半密閉空間での水素拡散挙動を調査。</p>
	事業者	JGA